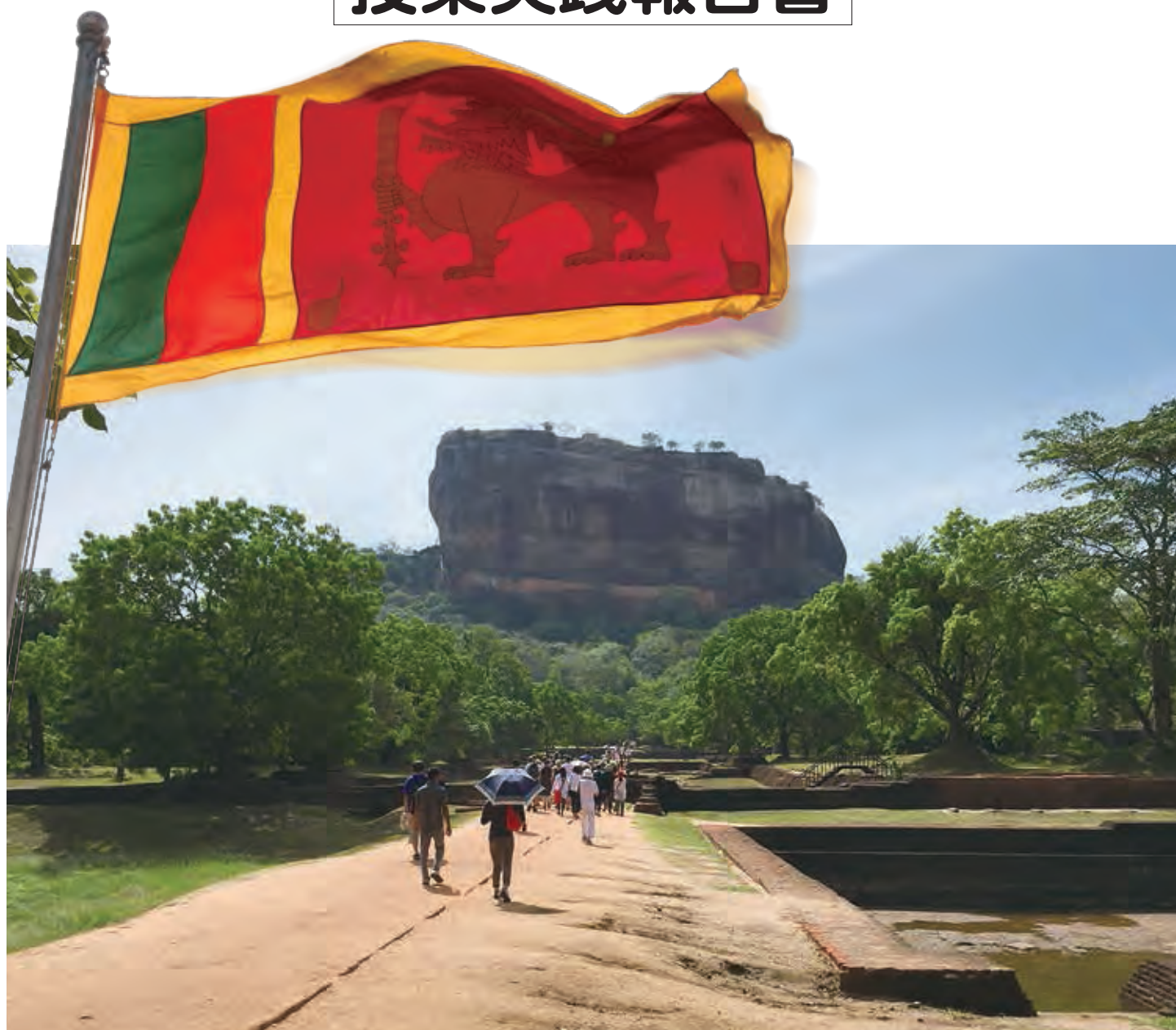


2017年度 JICA中国
教師海外研修
— スリランカ —

授業実践報告書



目次 contents

- ☐ はじめに
- ☐ 研修国概要
- ☐ 教師海外研修概要
- ☐ 訪問先トピックス
- ☐ 海外研修日程



授業実践報告

小学校

- 知って広げようスリランカ
鳥取市立瑞穂小学校
小林 千 華……………10
- スリランカってどんなところ？
広島市立口田小学校
原 野 佳 奈……………23

中学校

- ジャパナ・ハパナ
修道中学校・高等学校
藤 島 真 介……………36
- スリランカを入口に 世界に目を向けよう
岡山市立山南中学校
江 國 友 哉……………46
- 「知らない外国」から「行ってみたい場所」へ
防府市立牟礼中学校
下松谷 智 江……………60
- スリランカを知る・スリランカを通して考える
玉野市立日比中学校
井 本 亜 希……………74

高等学校

- 地域紛争と民族問題
広島山陽学園山陽高等学校
梶 本 秀 樹……………95

はじめに

全世界196ヶ国のうち開発途上国と呼ばれる国は146ヶ国もあります。それらの国の現状や課題、あるいは歴史的背景や先進国との関係などを知らずして、世界の今は語れません。多様な民族、言語、文化、暮らし、考え方、宗教などがあることに興味を持つ好奇心と、その多様性や違いを尊重する寛容な精神なくして、グローバル人材は育成できません。一方、開発途上国に、日本との共通点を意外に多く発見し、共感することで、開発途上国をより身近に感じることもあります。開発途上国の現状を知ることで、日本や郷土のことを、新たな視点で振りかえるきっかけになったりすることもあります。

独立行政法人国際協力機構（JICA：ジャイカ）は、開発途上国における長年の事業で培った経験と人材を活用し、日本国内の国際理解教育の発展に寄与するための活動にも積極的に取り組んでいます。「教師海外研修」は開発途上国の抱える問題に関心をお持ちで、全国の小・中・高等学校・特別支援学校において国際理解教育に取り組んでおられる、または今後それらに取り組むことを考えておられる教員の方を対象に実施しています。参加される教員の方々には、開発途上国の社会の実情や文化・習慣などを肌で感じ、JICAが実施する国際協力の現場視察を通じて、途上国のみならず世界共通の問題や日本と世界の国々の関わりを理解していただき、その学びや知見を日本で待つ子どもたちに還元していただくことを目的として実施しています。

中国地方に勤務する教員対象の今年度の「教師海外研修」は、2017年8月上旬から10日間、スリランカで行われました。同研修に参加した7名の教員の皆さんは、この研修への参加経験を活用し、それぞれの学校で授業実践に取り組まれましたので、今般、その授業の成果を冊子として取りまとめることとなりました。この冊子が開発途上国を題材とした国際理解教育に関心のある方々の参考となり、学校教育現場での実践の一助になれば幸いです。

独立行政法人 国際協力機構

中国国際センター所長 池田 修一

研修国概要



スリランカ民主社会主義共和国 (Democratic Socialist Republic of Sri Lanka)



首都：スリ・ジャヤワルダナプラ・コッテ

面積：6万5,607平方キロメートル（北海道の約0.8倍）

人口：約2,103万人（2016年）

民族：シンハラ人（74.9%）、タミル人（15.3%）、スリランカ・ムーア人（9.3%）（一部地域を除く値）

言語：公用語（シンハラ語、タミル語）、連結語（英語）

宗教：仏教徒（70.1%）、ヒンドゥ教徒（12.6%）、イスラム教徒（9.7%）、キリスト教徒（7.6%）

通貨：ルピー（1米ドル＝153.75ルピー／1ルピー＝0.73円（2017年1月値））

1人あたりGDP：3,835米ドル（2016年）

主要産業：農業（紅茶、ゴム、ココナツ、米作）、繊維業

主要貿易相手国：輸出…米国（27.3%）、英国（10.1%）、インド（5.4%）、ドイツ（4.9%）、イタリア（4.2%）

輸入…インド（21.7%）、中国（19.7%）、シンガポール（6.1%）、UAE（5.8%）、日本（4.9%）

<日本との関係>

2018年はスリランカ独立70周年にあたり、東京を含む世界の幾つかの主要都市において、スリランカの文化理解と観光促進のための事業がスリランカ政府の主導で実施される見込み。

在留邦人数：738人（2016年、在スリランカ日本大使館調査）

在日当該国人数：15,193人（2016年6月現在、法務省）

日本の援助実績：（1）有償資金協力：10,357.04億円（内2015年度実績 703.58億円）

（2）無償資金協力：2,071.93億円（内2015年度実績 12.14億円）

（3）技術協力実績：753.44億円（内2015年度実績 なし）

文化・交流・教育関係：「21世紀東アジア青少年大交流計画」、各種国費留学生の選考、各種日本語教育促進、各種文化展示などを実施。

スポーツ交流：2016年3月に、スリランカにおいて「スポーツ・フォー・トゥモロー」事業の1つとして、日本・スリランカ両国サッカー協会共催で「南アジアー日本U-16サッカー・トーナメント」が開催され、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、更なるスポーツ交流の促進が望まれる。

（2017年1月付 外務省ホームページ「各国・地域情勢」（スリランカ）より）

教師海外研修概要

JICAの国際理解教育・開発教育支援

グローバル化が進む昨今、環境や食料、資源といった地球の課題を学び、異文化理解や多文化共生を促進するため、国際教育や開発教育、持続可能な開発のための教育（ESD）といったオルタナティブな教育を多くの教育機関が実践し、その関心と需要はますます高まっています。

国際協力活動は主に開発途上国の現場で行われていますが、JICAでは途上国と日本の地域との架け橋となるべく、国内でもさまざまな活動を行っています。中でも、長年に渡る国際協力の経験と知見を活用して、地域の自治体や市民団体、大学・学校現場と連携して展開しているのが国際理解教育・開発教育支援プログラムです。

JICA中国では、国際協力出前講座、JICA中国施設訪問、国際教育研修会といったプログラムを通じて、一人一人が開発途上国や国際協力の現状について「知り」、自分と世界とのつながりに「気づき」、自分に何ができるかを「考え」、地球市民としての「行動」の一步をふみだすためのグローバルな教育活動を支援しています。教師海外研修は、そのプログラムのひとつです。



教師海外研修とは

1. ねらい

本研修は、国際理解教育・開発教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問し、国際協力の現場を視察することで、途上国の現状や日本との関係性、国際協力への理解を深め、その成果を、学校での授業等を通じて、地球の未来を担う児童・生徒への教育に役立ててもらうことを目的として実施しています。

国内で実施する派遣前・帰国後の研修では、ワークショップ体験などを通じて参加型学習やアクティブ・ラーニングの手法を学び、海外研修での知見をより効果的に還元するための授業づくりのサポートも行います。

帰国後は、教室にいる児童・生徒はもちろん、地域において他の教職員や市民にもその経験を発信してもらい、持続的に国際理解教育・開発教育の担い手として活躍していただくこともねらいとしています。



2. 応募条件

- 中国5県の国公立・私立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・高等専門学校・特別支援校に勤める教員及び教育委員会の指導主事（臨時採用、講師も可）
- 教師海外研修の趣旨・目的を十分理解し、国内で実施される研修を含め全研修に参加可能であること
- 原則、2017年4月1日現在、おおむね45歳以下であること
- 所属する学校の学校長、もしくは教頭の推薦が得られること
- 原則、本研修やJICAボランティア、JICA専門家、ODAモニター等、ODA事業として海外に派遣された経験がないこと
- 将来、JICAが実施する開発教育支援事業やイベントにご協力いただけること
- 本事業に関連して撮影された写真及び事業の結果、作成された著作物についてJICAが広報目的で使用するについて承諾すること



3. 研修のながれ (2017年度)

募集・選考

- 募集 (4月～5月下旬) ○書類選考、結果通知 (5月下旬) ○面接選考 (5月29日～6月6日)
- 最終結果通知 (6月8日)

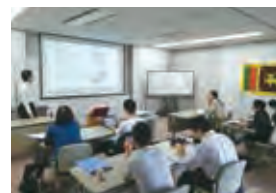
派遣前研修 6月24日(土)～25日(日) 会場：JICA中国 (広島県東広島市)

※2日目は<第1回国際教育研修会>と併催

- 海外研修について：スリランカ国事情、研修日程と訪問先解説、渡航手続きについて
- 講義：「渡航国概要」前田 芳広 氏 (元青年海外協力隊/スリランカ)
「授業を見据えた準備と実践」久藤 映 教諭 (廿日市市立津田小学校/2016年度教師海外研修参加)
「海外の知見を学校現場で活かすには」三浦 隆聖 指導主事 (広島県教育委員会 義務教育指導課)

<第1回国際教育研修会>

- 「いま ここで 世界を考えるために」
講師：富田 和広 氏 (県立広島大学 人間文化学部 国際文化学科 教授)
- 「小学校の教室から世界を知ろう、感じよう」
ー2016年度教師海外研修参加者による模擬授業ー
講師：野村 麻衣 教諭 (広島県坂町立坂小学校)



出発前報告書提出 7月31日(月)

海外研修 (スリランカ) 8月8日(火)～17日(木)

現地研修報告書提出 8月28日(月)

派遣後研修 9月2日(土)～3日(日) 会場：JICA中国 (広島県東広島市)

海外研修で得た資料や情報を参加者全員で共有・整理。参加型手法を改めて学びながら、現地の知見をどう教材化するか考え、授業案を作成。

(助言指導：富田 和広 氏)



所属校での授業実践 9月～12月



授業実践報告書提出 2018年1月9日(火)

第2回国際教育研修会 2018年1月27日(土) 会場：ひろしま国際センター 交流ホール (広島県広島市)

- 教師海外研修 報告/模擬授業「教室からスリランカへ」
今年度教師海外研修参加者による現地研修の報告、研修の成果を模擬授業として発表
- ワークショップ「ウーリー・シンキングで考える私と課題とのつながり」ーワークショップー
講師：荒川 共生 氏 (ボルネオ保全トラストジャパン 理事)
- 講評・意見交換・ふり振り返り
コーディネーター：富田 和広 氏

海外研修 訪問先トピックス



8月9日(水)

【教育機関視察】国立教育研究所 (NIE: National Institute of Education)

スリランカの教育カリキュラム作成や現職教員の研修などを行う機関を訪問、参加者7名が日本の教育に関するプレゼンテーションも行いました。「『ジャパナ・ハバナ→日本人は素晴らしい』。これは古くから伝わるシンハラ語の言葉。我々のプレゼン後『今日ジャパナ・ハバナという言葉がよく分かった。日本人は素晴らしい』とお褒めの言葉があった」(藤島)

「プレゼンテーションが褒められたことで、日本の教育で自分たちが育ち、それによって力をつけてきていることに気がつけた」(小林)



8月10日(木)

【NGO活動視察】「リトルツリー」

教育水準の高いスリランカですが、障がいを持つ人への教育と社会参加はまだ一般的ではありません。障がいを持つ子どものための施設「リトルツリー」では、子ども達と交流し、彼らの家庭におも邪魔しました。

「日本の特別支援教育よりは圧倒的に支援が少ない状況で、不満がないのに驚いた。通所施設・通常の学級に関わらず、早急な教育体制の改善が必要だと感じた」(原野)

「『子どもたちが、自立できるように』『地域の結びつきが強いスリランカ。いつでもどこでも助けてくれる人がいる』『スリランカは古き良き日本』といった、設立者である馬場さんの言葉が印象的だった。一緒に働く先生は『馬場さんの思いに動かされた』と話しており、そのコミュニティで生きる人々のために、海外で本気になって働く日本人の活躍に心を動かされた」(井本)



8月11日(金)

【青年海外協力隊 活動現場視察】 「環境教育」「コミュニティ開発」に携わる隊員を訪問

「環境教育の大切さを実感。清潔にしたい、すべきという観念は万国共通ではない。汚水問題や健康被害などが残るスリランカでは、協力隊の活動やJICAが進めているプログラムが急務であることを実感した」(藤島)

「自分で考え、活動している隊員を見て、頼もしく思えた。私たち日本人にとつては当たり前の行動でも、それが現地の人にとっては当たり前ではない状況で、『よりよい社会にしていこう』ための方法の提案や浸透はとても難しいものだと思う。見知らぬ土地で続ける地道な作業が、少しでも現地の人の生活を改善することができるのであれば、これが草の根協力なのかなと思った」(井本)



8月12日(土)

キャンディ市内にて教材収集

「活気のあるマーケットでは、目の前で肉の処理が行われていたり、ハエが飛んでいたり、カラスがついばんだり。いのちとの距離が近いと感じた」(江國)

「仏歯寺を参拝。早朝から大勢の参拝者で、日本の初詣のような混み具合に驚いたとともに、日本では感じられない厳肅な雰囲気と緊張感ある空気感に圧倒された」(梶本)



8月13日(日)

【有償・無償資金協力、技術協力 現場視察】シーギリヤ

「日本の援助によって建てられた資料館には、シーギリヤロックに登れない人のために、シーギリヤレディのレプリカがあった。日本が関わっているにふさわしい、訪問者への気遣いを感じた」(梶本)

「高額な入場料はスリランカの人々の生活にどれくらい還元されているのかが気になった。また、散在するペットボトルやお菓子の袋を目にし、観光地とゴミの問題は避けられないのか…と考えさせられることが多かった」(江國)



8月14日(月)

【草の根技術協力事業・NGO活動視察】NGO「パルシック」

四半世紀以上続いた内戦の激戦地だった北部へ。内戦の寡婦を始めとする女性の社会参加と収入向上のプロジェクトを展開する「パルシック」を訪問し、サリーのリサイクル事業について話を聞きました。

「『この道をまた通れるなんて夢みたいです』。北部へ続く道を感慨深そうに説明する通訳さんが印象的だった」(下松谷)

「女性の自立支援の『実現』も素晴らしいことだが、彼女たちの技術を活かして『やりがい』を与えられていること。『男性が働き、女性が支える』という文化にも切り込んでいることに感銘を受けた」(藤島)



8月15日(火)

【青年海外協力隊 活動視察】クルネーガラ診療所訪問

「ドクターが、忙しいにも関わらず質問に答える時間を作って下さり、日本への感謝を口にしておられた。自分の知らないところで日本人が活動し、そのことで日本から来た私たちが感謝を伝えられるのは不思議な体験だった」(小林)



【中小企業連携】「すらら塾」訪問

日本企業との連携で運営されている学習塾を訪問。eラーニングを使った教育の場であるとともに、女性銀行が塾の運営をサポートすることで、女性の雇用拡大と自立支援も促進しています。

「貧困から抜け出すためには教育が大切なこと、その教育を受けるためにも格差があることを知った。『勉強したい』と意欲的に学習しているスリランカの子どもの姿を日本の子どもたちはどう思うか、スリランカの子どもたちは『塾に行かされている』日本の子どもたちについてどう思うか、聞いてみたい」(下松谷)



8月16日(水)

JICAスリランカ事務所 研修成果の報告

「『生徒に今回の体験をどのように伝えるかが大切。その先生の姿勢を見ながら次世代が育つ。教員の仕事は尊い』と言われたことが印象に残った。情報を与えるのではなく、彼らの心に響く授業をしたい」(藤島)



海外研修日程

月 日	内 容		宿 泊
8月 7日(月)	夕刻	【出発前オリエンテーション】(関西空港周辺ホテルにて)	大阪
8月 8日(火)	午前	関西国際空港を出発、乗継地の香港へ	コロンボ
	夜	スリランカの都市コロンボに到着	
8月 9日(水)	朝	【JICAスリランカ事務所ブリーフィング】 ・国事情と安全管理 ・JICAの協力内容 ・スリランカの教育事情について	エッラ
	午前	【教育機関視察】国立教育研究所(NIE) ・現地の教育課題について ・参加教員によるプレゼンテーション「日本の教育について」	
	午後	陸路にてエッラへ(移動約5時間)	
8月10日(木)	午前	陸路にてブッターラへ(移動約2時間)	エッラ
	終日	【NGO活動視察】「リトルツリー」(NGOスランガニ基金 運営) ・子どもとの交流 ・ホームビジット ・青年海外協力隊員、現地職員との意見交換	
	夕方	エッラへ戻る	
8月11日(金)	朝	陸路にて古都キャンディへ(移動約4.5時間)	キャンディ
	午後	【青年海外協力隊 活動視察】 ・「環境教育」「コミュニティ開発」隊員の活動紹介 ・環境教育の授業の様子見学 ・市営資源ゴミ売買センター視察	
8月12日(土)	午前	キャンディ市内見学、学習教材収集	ハバラナ
	午後	陸路にてハバラナへ(移動約3時間)	
8月13日(日)	午前	【有償・無償資金協力、技術協力 現場視察】 ・JICAの支援で建てられた「シーギリヤ資料館」見学 ・シーギリヤ散策	パウニヤ
	午後	陸路にてパウニヤへ(移動約3時間)	
	夕方	ホテル到着後、中間ふりかえり	
8月14日(月)	朝	陸路にて北部の都市ムラティブへ(移動約2時間)	アヌラーダブラ
	午前	【草の根技術協力・NGO活動視察】NGO「パルシック」 ・活動視察(サリーリサイクル事業) ・昼食作り体験	
	午後	陸路にて古都アヌラーダブラへ(移動約3時間)	
8月15日(火)	朝	陸路にてクルネーガラへ(移動約2.5時間)	コロンボ
	午前	【青年海外協力隊 活動視察】 ・クルネーガラ診療所訪問 ・「看護師」隊員の活動紹介 ・妊産婦検診の様子を視察	
	午後	陸路にてコロンボへ(移動約3時間)	
	午後	【中小企業連携】「すら塾」(株式会社すらネット 運営) ・「女性銀行」に関するブリーフィング ・「すら塾」見学	
	夜	青年海外協力隊員・JICA職員との夕食懇談会	
8月16日(水)	午前	最終ふり回りミーティング	機内
	午後	JICAスリランカ事務所にて研修報告	
	夕方	コロンボ市内資料収集	
	深夜	空路にてコロンボを出発、香港経由で日本へ	
8月17日(木)	午後	関西国際空港着後、解散	

授業実践報告

小学校編

知って広げようスリランカ

氏 名：小林 千華
学 校 名：鳥取市立瑞穂小学校
担当教科：1年

時 間 数：7時間
実践教科：学級活動、国語、図書の時間
対象学年：全校
人 数：45人

【1】単元のテーマ・目標

スリランカの写真や動画を見たりクイズをしたりすることを通して、スリランカという国の自然や文化について自分なりに興味・関心を広げる。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	動画や写真からスリランカの人、自然や文化について知ることを通して、スリランカに親しみや興味をもつ。
(イ) 思考・判断・表現	言葉や国が違って大切になっていることは同じことに気がつく。
(ウ) 技能	
(エ) 知識・理解	スリランカー周クイズラリーをすることを通して、スリランカの位置や自然や文化について知る。

【3】単元設定の理由

<児童観>

本学校の児童は、男子25名、女子20名の全校で45名である。素直で活発な児童が多く、同学年だけでなく異学年でも仲がよく6年生企画で全校遊びも楽しんでいる。学校教育目標は「進んで学び、心豊かに、粘り強くチャレンジする瑞穂っ子の育成」である。学校全体で「チャレンジ」をキーワードにしており子ども達は日々いろいろなことにチャレンジすることを通して成長している。また、ALTの先生や授業を通して、世界の国に興味をもち、外国語活動を楽しみにしている児童もいる。

<教材観>

本単元では、校内をスリランカの国に見立ててスリランカの各地域でのクイズにチャレンジするスリランカー周クイズラリーの活動を設定した。クイズを通して、スリランカの特色（人、言語、文化、自然、動物）に気づき自分たちと同じところや違うところの両方に目が向くのではないかと考える。そして、クイズラリー後に教室で答え合わせをしながら教師自身が経験して学んだことや感じたことを伝えたい。クイズの内容は子ども達自分たちと比べやすいように衣食住を中心に扱った。今回、教師海外研修に参加し、青年海外協力隊の方の話を伺い、スリランカで活躍される日本の方との出会いが大きかった。出会い、話を聞く中で感銘を受けた。そこで、青年海外協力隊の方の活動にも触れるようなクイズを設定した。また、事前に子ども達にどんなことを知りたいかという質問をして興味を持っていたテーマを入れるように意識した。子ども達が入学当初「自分の宝物は何か」という問いに「家族」と書いていた。スリランカで出会った方々も「家族」を何よりも大切に思っていた。そのことから、国や言葉が違って大切になっていることは同じだと気がつけるようにしたい。また、今回スリランカー周クイズラリーという活動において、スリランカの地図上で、行った場所を丸で囲み、線でつなげてい

く作業を行うことを通して、同じ国でも地域によって言葉や民族、宗教が違うことにも気づかせたいと考えた。

<指導観>

指導にあたって、図書館の前にスリランカコーナーを設置し、スリランカに関するガイドブックや一年生の教科書、通貨、民族衣装（サリー）、スリランカの地図、スリーウィラーのキーホルダー、ルピーの毎日の為替を展示した。また、図書館には、世界の国の本コーナーが作っており、スリランカ出身の絵本作家の作品が展示されていた。授業でスリランカのことを伝えていく中で、特に、日本が援助してすごいという印象だけで終わらないようにしたいと考えた。実際調べてみると、日本がしている援助やプロジェクトももちろん多かったが、東日本大震災の際、スリランカから日本に援助に来てくださっていることも分かったので、お互いに助け合っているという考え方も伝えるように意識したい。

【4】展開計画（全7時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「スリランカってどんな国？」 ・スリランカに興味をもつ （全校集会）	(1) スリランカについて知る （スリランカの食、動物、お店をテーマにパワーポイントやクイズにする）	・パワーポイント ・現地で撮影した写真 ・現地で購入した教科書
2～3	「日本と外国とのつながりを知ろう!」 ・青年海外協力隊の方がスリランカでの支援の具体を示し、活動の思いについて考える （図書:5,6年）	(1) スリランカの方が書いた絵本を読み聞かせる (2) 国際貢献や国際協力で、世界で活躍している人たちの存在を知る (3) どんな仕事をしてきたのか、仕事のやりがいや嬉しかったこと、困ったことなどを聞く	・写真 ・インタビュー動画 ・世界地図
4	「世界の国について調べよう」 ・興味をもっている世界の国について調べる （国語:2年）	(1) 知っている国を発表する (2) 調べる国を決めて、図書館で調べ学習をする（似ているところ、違うところ） (3) 自分が調べた内容について発表する	・世界各国関連する本
5	「スリランカってどんな国」 ・スリランカについて写真を見ながら知る （国語:2年）	(1) スリランカの方が書いた絵本の読み聞かせをする (2) スリランカについて知りたいことを発表する (3) スリランカの生活の様子を写真や動画を見ながら紹介する	・写真 ・動画 ・スリランカで買ったものの ・世界地図 ・絵本
6 本時	「スリランカー周旅行をしよう」 ・スリランカに関係あるクイズラリーを通して、スリランカに興味をもつ ・国や言葉が違って大切になっていることは同じだということに気づく （学活:1年）	(1) スリランカについて知りたいことを発表する (2) 校内でスリランカー周クイズラリーをする (3) 教室でクイズラリーの答え合わせをする (4) スリランカの家族が考える幸せと1年生が考える宝物が同じ「家族」であることを知る (5) ふりかえりをする	・写真 ・動画 ・ワークシート ・スリランカの地図

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
7	「スリランカの事でもっと知りたいことはなんだろう」 ○スリランカに興味をもったことを調べたり友達と話す (学活:1年)	(1)クイズラリーで回った地域をスリランカの地図に書き込む (2)スリランカについてもっと知りたいことを発表する (3)スリランカの教科書に書き込んでみたり、ガイドブックを見たりする (4)スリランカの絵本を読み聞かせする	・スリランカの地図 ・スリランカのガイドブック(3冊) ・絵本

【5】 本時の展開

学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
1. スリランカについて、知っていること、知ってみたいことを発表する。 ・どんな車があるか見たい。 ・たくさん動物がみたい。 ・食べ物を知りたい。 ・お金が違つか見たい。	・事前に子ども達に、スリランカについて興味を持っていることや知りたいことを聞いておく。 （乗り物、お金、動物） ・子ども達の知りたいテーマと教師が気づいてほしいテーマ両方を考えて意欲を大切にしたいクイズを作っておく。	・世界地図 ・スリランカの国旗
2. 学校の中をスリランカに見立てていろいろな地域をめぐりながら、スリランカクイズに答える。（クイズ14問）	・校舎の中を探検しながら、それぞれの地域のクイズをみんなで考えることでスリランカのいろいろな特色を知るようにする。 ・クイズは、三択にすることで答えやすくする。 ・地名にも空欄を作り、地名も意識できるようにする。	・現地の写真 ・行った地域の写真とクイズ
3. 教室で写真や動画を使い、クイズの答え合わせをする。	・同じ国でもいろいろな地域によって違うことに気がつくようにする。（民族、言葉、仕事、動物） ・海外の他の国についてももっと知りたいという意欲が持てるようにする。 ・国はちがっても大切にしているものや言葉が同じことから、みんなが仲間だということを話す。	・プレゼンでまとめたもの ・現地の動画
4. スリランカの家族が考える幸せと1年生が考える宝物が同じ「家族」であることを知る。	・はじめて知ったことやもっと知りたいと思ったことを書く。	・心のノート（道徳）
5. ふりかえり		・振り返り用紙

【授業実践の様子】



クイズラリーに答える様子



スリランカの地図を見ながら行ったところを探す様子



興味をもったことをスリランカコーナーで確かめる様子

【6】 本時の振返り

今回のJICAの教師海外研修では、交通手段にバスを使いスリランカを一周することができた。その際に感じたのは、同じ国でも地域によって文化や民族、宗教がちがうということである。これらの違いを子ども達に伝えたいと考えた。校舎内を使った活動だったので、子ども達はクイズラリーにとっても意欲的に参加することができ

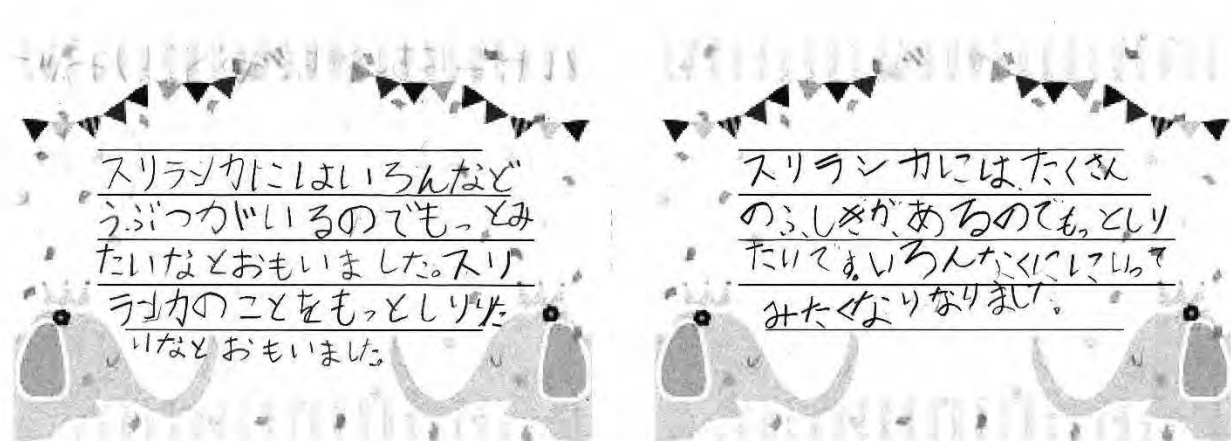
た。また、クイズと一緒に地域の名前と地図を置いておくようにした。すると、「次はエッラだ」など自然と地名がクイズラリーの中で出ていた。児童の多くはスリランカという国について初めて知ったようだが、車、動物、店、お金などいろいろなものに興味をもっていたので、その実態を生かしてクイズも子ども達が楽しめるように工夫した。その中でも特に子ども達はスリーウィラーやお金の模様や色使いに興味を持っていた。

そして、子ども達は、家族からもスリランカについて聞いたり話したりしていたこともあり、「お母さんがスリランカは紅茶が有名って教えてくれた」と嬉しそうにクイズに答える姿が見られた。家族とのかかわりによって授業が成り立ったことを実感した。食べ物や勉強についても興味を持った児童が多く、次の時間は教師が購入したガイドブックや同じ1年生の教科書に書き込んだりして興味を広げることができた。ただ、活動に予想以上の時間がかかってしまい、振り返りの時間が十分に取ることができなかった。そして、スリランカ一周旅行としていたがクイズに答えている地名がスリランカのどの辺なのかまでは子ども達が意識できていなかった。意識できるように、地図を置くだけでなく、そこに注目できる工夫が必要だと感じた。

【7】単元を通した児童生徒の反応／変化

＜授業後の子どもたちの感想＞

- ぼくは、スリランカの乗り物がスリーウィラーということを初めて知りました。スリーウィラーに乗ってみたいです。
- ルピーは毎日、値段が変わるのを知ってびっくりしました。
- いろいろなサルがいて、スリランカに行ってみたいと思いました。
- スリーウィラーがミゼットに似ていてびっくりしました。他の国の車も知りたくなりました。
- ルピーにちょうちょや鳥がついていてびっくりしました。
- スリランカの庭にはいろんなものが植えてあるので、ぼくも食べてみたいと思いました。
- バナナのお皿がおべんとうにもなるなんて知りませんでした。
- わたしは、日本人となかよしだったなんて知りませんでした。紅茶の葉っぱが畑にできていてすごいと思いました。



【単元を通し変容した児童の態度や学習意欲】

スリランカコーナーを作ったことで、授業をした学年だけでなく民族衣装のサリーを着たいという児童やスリランカのことにについて質問にやってくる児童がいた。また、毎日のルピーの為替を掲示することで子どもたちから「今日はいくらですか」「136ルピーでどんなものが買えるんですか」など質問される事があった。質問されることで、お菓子の値札を見る機会が作れたり、写真でスーパーのチラシを紹介したりと、子ども達の興味を広げることができた。子ども達は日本とは違う通貨について興味を持っていたように感じる。

下学年の授業では、動物や自然についてもっと知りたいという声や、他の国のことも調べたいという意欲が見られた。また、国語の学習で他の国を調べるときには、インドの服を見て「この服はスリランカと同じですね」

などスリランカと他の国、日本と他の国、日本とスリランカと世界の国同士でもつながりを考えることができていた。さらに、初めて知ることが楽しい、もっと知りたいという意欲も強かった。

上学年では、スリランカの方が書かれた絵本を読み聞かせして頂いた。甘いお菓子が絵本の中に出てくると青年海外協力隊の方が活動しておられる生活習慣改善の話と関連付けて考えられる児童もいた。また、絵本の中の家の庭には植物があることと、教師が撮影した写真、例えばスパイスやココナッツなどよく使うものは庭に木が植えてあることにも考えが広がっていた。さらに、日本が途上国に援助をしていることを上学年は知っていたが、日本も災害の時には援助してもらっていると知り驚く様子が見られた。そのことから、お互い助け合って生きていると実感できているのではと思った。スリランカで活動されている方の話をすると、「この方は今もスリランカにおられるんですか」と今日本にいる自分たちとスリランカでがんばっておられる日本の方を関連付けて考えていた。

【途上国・異文化への意識の変容について（教員自身）】

<授業前>

途上国に、日本や先進国と呼ばれている国が援助しているという捉えが自分の中にもあった。この教師海外研修に参加することで、青年海外協力隊の方に話を聞きスリランカのためにがんばっている日本の方の活動や思いを子ども達に一番に伝えたいという思いがあった。また、異文化に対して文化や生活様式、考え方が日本とは全く違うことが多い。その違いを見つけていくことが異文化理解の面白さでもあり、もっと知りたいと思う原動力になるという意識が自分自身にあった。

<授業後>

日本が途上国に多くの援助を行っていることは知っていたが、授業後は、日本も支援してもらっている事実や過去に助けてもらっていることを理解することができた。そして、どちらかが一方的に援助するのではなくお互いに手を取り合って平和に生活することを妨げる課題を改善して、幸せな人間社会を作るために「おたがいさま」の気持ちを持つことは大切だと感じるが多くなった。スリランカでがんばっておられる方のことを伝えることも大切だが、それだけにならないようにしたいと考えようになった。

また、スリランカの家族に話を聞き、ホームビジットを通して素敵だなと感じることも多くあった。例えば、スリランカの家に行くと近所の子も自分の家のように過ごしている姿を多く見かけた。近年、日本では、地域コミュニティが衰退している問題があるが、コミュニティを守る重要性をスリランカの家庭を見る事で感じるようになった。国や人種や経済状況、宗教がちがっても一番大切にしているものや幸せを感じる時は共通していることに気づくことができ、人間として大切なことはどの人も同じだということに気が付いた。違いに目を向けて発見する面白さもあるが、同じところを見つけていく面白さにも気がつくことができた。

【8】自己評価

1. 苦労した点

学習活動が展開する中で一番考えたことは、自分が伝えたことが子ども達にとってスリランカという国、世界の国についてのイメージになってくることである。その責任の大きさや、自分が見てきたものの中にまだ感じられていない、理解しきれていないことがあるのではないかと思うことが多かった。その中で、どのように、何を伝えることができるかを考えた。また、伝えたいことはたくさんあるのだが、学年や発達段階によって何を学習のねらいとして設定するのかに苦労した。スリランカは、南北の地域によって住む民族が違ったり、宗教が違ったりする人々が協力している国である。協力して生活しているスリランカの人たちの人柄も伝えたいがうまく伝えきることができなかった。地域での違いや地域での特色に気づくようにするために、もう少し地名や場所を視覚的に分かりやすくする工夫が必要だと考えた。

2. 改善点

授業をするときに、校内をスリランカと見立てて活動をした。しかし、子ども達の中でスリランカの地域の地

図の位置関係が不十分だったと考える。そのためにも今回の授業では行った地名をクイズラリー後に拡大した地図に書き込む活動を事前しておくことも可能だったのではないかと思った。また、スリランカコーナーにはスリランカの地図だけを展示していたが、行ったところにふきだしをつけて紹介するなど、地名にも触れるような掲示をしておくことで、子ども達が地名やスリランカのどこの写真なのかを理解しやすくなったのではないかと思った。次回授業を行う時には、スリランカコーナーにスリランカの地図だけでなく、行った場所の地名も書いてある地図を掲示しておきたいと考える。

3. 成果が出た点

授業後、子ども達が、クイズをしていく中でスリランカや世界の国に興味を持ったことが大きかった。連絡帳でも、「学年便りの写真を見ながらスリランカのことをいろいろ説明してくれました」「テレビでスリランカという言葉を知ると興味をもって見えています」など子ども達に話をしたことについて、家庭や自分の中で興味を広げている様子を聞き、小学校でも子ども達にいろいろな世界のことを種まきすることは大切だと感じた。また、スリランカの乗り物に興味を持ったり、動物に興味を持ったりしている児童が多かった。子どもそれぞれに興味の対象が違い、世界の国について自分なりの興味を広げて「食べ物の本を見たいです」など自分たちで行動する姿が印象的だった。また、スリランカに行ってみたいという児童が多かった。その後の学校生活でも、休憩時間に「アーユーボワン」と子ども達の中で聞こえてくることもあった。一度授業を受けただけでも学習した内容が知識として定着すると子ども達の中でさらに意欲的に学ぶ意欲につながっていく可能性を実感した。

4. 備考・所感

今回、学校で子ども達がいろいろなことにチャレンジしている姿や世界の国に興味を持っていることを感じ、教師海外研修に参加したいと考えた。行くまでは、教師海外研修にいき、何を自分自身が感じるのか、学び取れるのか、子ども達に伝えられるのか不安を感じることも多かった。しかし、この研修で学んだことは「百聞は一見にしかず」である。実際に見たり感じたりすることで伝えたいことがまとまっていく経験ができたことはとても大きな学びだった。また、子どもたちは、何かを伝えたり、写真を見せたりすることだけでも想像を広げ世界とつながっていけることが分かった。これからの子ども達は将来世界へ羽ばたいていくことが多くなり、それを意識している子もいると感じる。その子たちのために少しでも世界の国について知ることができる機会を学校の中でも作っていく大切さを学んだ。

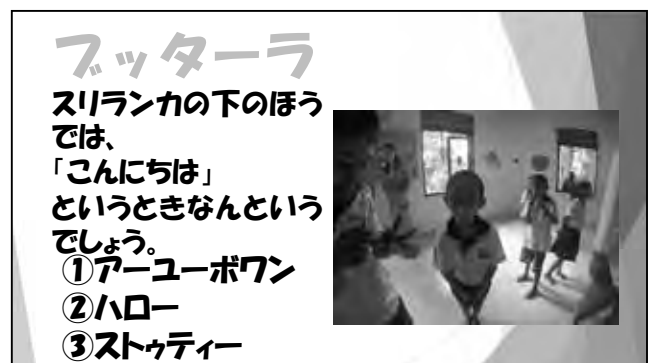
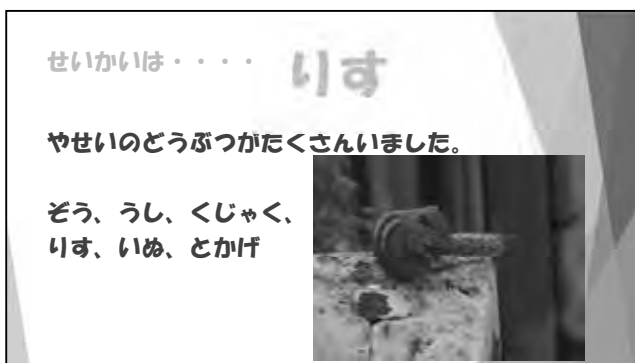
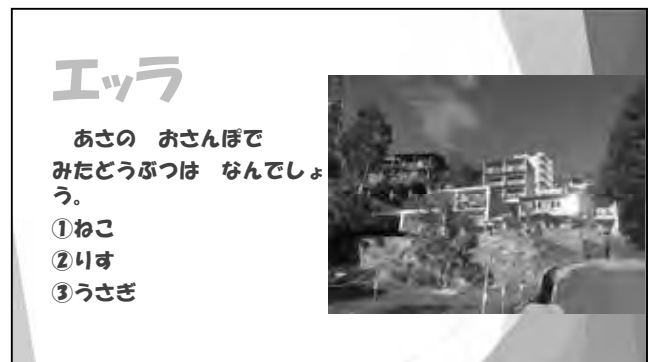
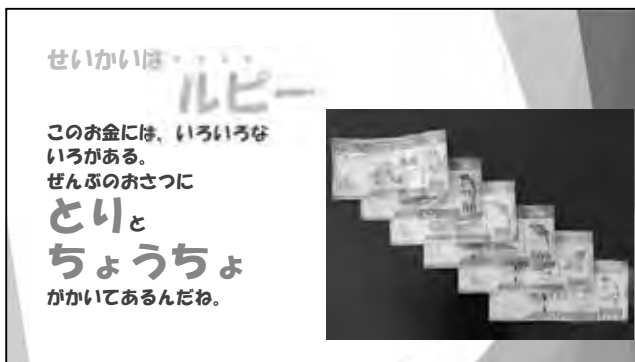
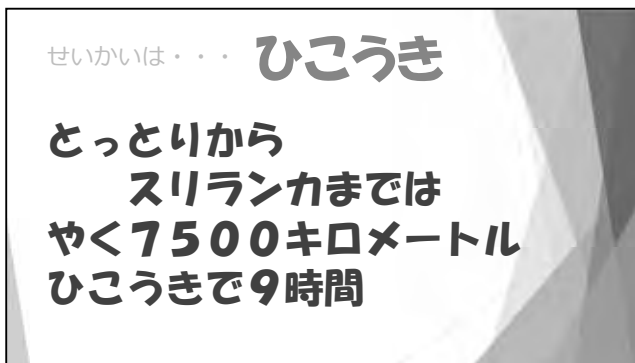
【参考資料】

<書籍>

- ・絵本「ねこのくにのおきゃくさま」
- ・絵本「ポッタとポッティ」
- ・絵本「かさどろぼう」
- ・絵本「きつねのホティ」
- ・JICA中国「2016年度 JICA中国ラオス教師海外研修授業実践報告書」

<Webサイト>

- ・スリランカ／JICA
- ・スリランカ民主社会共和国／外務省



せいかいは・・・

アーユーボワン

なかよくなるための

まほうのことば ♪

みんなでいってみよう。

エッラ

このはたけには、スリランカの
ゆうめいなものが
うえられています。
それはなんでしょう。

- ①こうちゃ
- ②みかん
- ③ブルーベリー



せいかいは・・・ こうちゃ

スリランカは**こうちゃ**と

ほうせきがゆうめいです。



キャンディー

「ぶっしじ」という
おてらにいくとき、
なにいろのぶくを
きていくでしょう。

- ①白
- ②くろ
- ③きいろ



せいかいは・・・ 白



スリランカはおてらがたくさん
このおてらには、フッダのはが
おいてあるんだね。

ハバラナ

スリランカには
こんなのりものがたくさんあ
ります。
なんというりものでしょう。

- ①スリーウィーラー
- ②バイク
- ③スクート



せいかいは・・・

スリーウィーラー

にほんの**タクシー**みたいな
かんじだね。



シーギリヤ

シーギリヤロックにある
はくぶつかんは、どのくにと
いっしょにつくったでしょう。

- ①にほん
- ②アメリカ
- ③ちゅうごく



せいはいは・・・ にほん

2009ねんに
にほんと力を
あわせて
つくったんだね。



ムッラティーグー

スリランカの上のほう
こともたちにあいさつを
します。
なんというでしょう。

- ①ニーハオ
- ②ワナッカム
- ③チャーオ



せいはいは・・・ ワナッカム

スリランカはおなじくにの中でも
つかっている**ことば**がかわる
んだね。
シンハラ語とタミル語があるんだ。

ムッラティーグー

バナナのかわは、
なににつかうで
しょう。

- ①おさら ②やぎのえさ ③うちわ



せいはいは・・・ おさら

しっかりしているから
おさらにはやがわり！
おべんとうぼこにもなるんだね。



ムッラティーグー

これは、なにを
しているところで
しょう。

- ①つなひき ②さかなをとる ③ぞうのさんぽ



せいはいは・・・ さかなをとる

さかなをとって、大きなまち
にはこぼれるんだね。
このむらのしごとは

りょうしが おおいんだね



アヌラーダフラ

この白い
ココナッツみるくで
にたごはんを
なんというでしょう。

- ①チャーハン ②ワデー ③キリ・バット



せいかいは・・・

キリ・バット

スリランカは

ココナッツを

たくさんつかうんだね。



クルネーガラ

スリランカの小学
校には

ほけんしつはある。



①まる(ある) ②ぼつ(ない)

せいかいは・・・

ぼつ

日本人の

ことなさんが
おうちをまわって
けんこうしんだんを
してるんだね。



コロンボ

なんのしごとを
している人だろう。

- ①みちあんない
- ②まちのそうじ
- ③おぼうさん



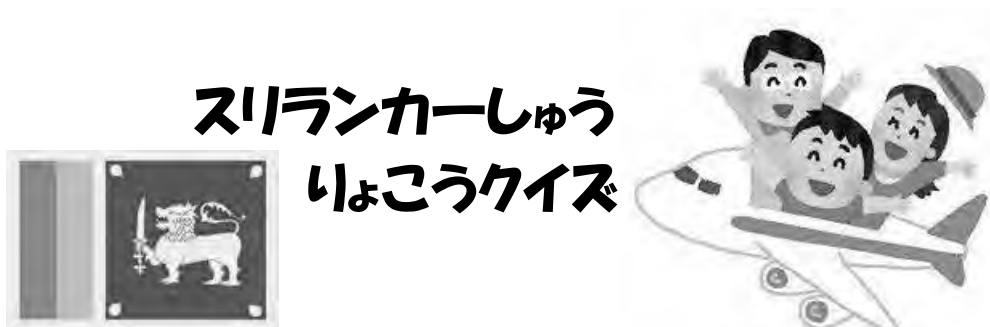
せいかいは・・・ **おぼうさん**

スリランカでは、ぶっきょう
が70パーセントだから
おぼうさんがおおいんだね。

ヒンドゥー教、イスラム教、キリスト教

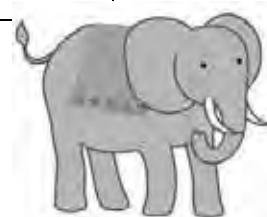


どんなときがって
しあわせ??



スリランカーしゅう りょこうクイズ

	まちなまえ	クイズのこたえ
1	にほん	
2	コロンボ	
3		
4	フッターラ	
5		
6	キャンディ	
7		
8	シーギリヤ	
9	ムラティフ	
10	ムラティフ	
11	ムラティフ	
12	アヌラーダプラ	
13	クルネーガラ	
14		



【資料3】 活動の様子



図書館の世界の国コーナー



民族衣装のサリーを着る



スリランカの絵本作家シビルウェッタシンハさんの絵本



2年生への授業の様子



スリランカの絵本の読み聞かせ



スリランカコーナー

スリランカってどんなところ？

氏 名：原野 佳奈

学 校 名：広島市立口田小学校

担当教科：全教科

時 間 数：7時間

実践教科：学級活動・国語科・道徳の時間・校内研修

対象学年：第1学年・教職員

人 数：31名

【1】単元のテーマ・目標

スリランカを外国として捉えるだけでなく、スリランカの国の学習を通して互いの違いを認め合うこと、尊重することの大切さに気付かせる。また、身近な生活の中で共通することも見付け、世界は思っている以上に身近な存在であると感じ、もっと知りたいという意欲や関心をもたせる。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	他国について関心を高めることができる。 (学級活動、国語科、道徳の時間)
(イ) 思考・判断・表現	疑問を見付け、想像したり予想したりして考えることができる。 (学級活動、国語科、道徳の時間)
(ウ) 技能	いろいろな国のやり方を比べて、似ているところや違うところを見付けることができる。(国語科)
(エ) 知識・理解	スリランカの文化や生活様式について知ることができる。 (学級活動、国語科、道徳の時間)

【3】単元設定の理由

<児童観>

本学級の児童は、様々なことに関心をもつことができるが集中力を保ち続けることが難しい。また、みんなで遊ぶことが大好きであるが、自分の思いを通そうとしてトラブルになることも多い。優しい心をもっているが、それゆえどうしても周りの友達のことが気になってしまうことから、ちょっかいをかけてしまう児童も多数いる。

<教材観>

「スリランカるた」の教材は、スリランカで担任が実際に見て写真に収めたものを絵札とし、児童が予想したり考えたりすることができるような読み札で活動するスリランカのかかるたである。かるたは休憩時間に遊んだり道徳の時間に作成したりして、本学級の児童にとって馴染みのある遊びである。みんなで頭を寄せ合って集まり、読まれた札に合わせて、絵札を一生懸命探す姿が多く見られる。そのため、本学級の児童全員が積極的に授業に参加するための意欲付けに適した教材である。

<指導観>

スリランカの写真は、児童の関心が高い動物や食事、誰もが一度は見たことのあるポストやお店など身近なものを教材として選んでいる。そのため、比較しながら考えさせることができると考える。遠い外国の存在とし

てのスリランカだけでなく、違うところもあるが同じところも見付けられるという視点を大切にしている。外国の文化、外国の人だから違和感がある、分かり合えないと考えて世界中の人々と接するのではなく、同じ地球に住む者同士として、互いを認め合うことができる児童を育てたい。そして、今、自分の周りにいる人に対しても、互いを尊重し、気持ちよく過ごしていけるような感覚の素地の形成を目指している。また、写真だけでなく、ビデオを見せたり、実物や実演を見せたりすることを通して、より身近なものとして異文化を捉えさせたい。特に、サリーを児童の目の前で実際に着用する場面を見せることで、外国文化の面白さや驚きを味わわせ、より意欲的に活動に取り組ませることにより、外国に対する関心を高めさせることができると考える。

【4】展開計画（全7時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 (1年)	「世界にはいろいろな国があることを知り、日本のことも知ってもらう」 ・世界には様々な国があることや、いろいろな言語や文化があることを知り、日本の文化についても改めて考えることができる	・世界にはどんな国があるのか知る ・世界の人々がどんな言語を使っているのか知る ・スリランカという国があることを知る ・スリランカの約30年前の様子を写真で紹介する（校内の教員が以前旅行したときのもの） ・スリランカの友達に日本のことを知らせるために、日本のことを想起する ・思い出したことを作品にする ・学習のまとめをする	・さかさまの地図 ・約30年前のスリランカの様子が分かる写真のアルバム ・折り紙
2 (教員)	「スリランカの国の様子や教育事情について知る」 ・スリランカ研修で学んだスリランカの国の様子と教育事情を絡めて教職員に知らせ、授業実践についての提案をすることができる	・スリランカ研修で見たことや聞いたこと、体験したことや感じたことを自分の言葉で知らせる ・これからの授業実践で行おうと考えていることを提案する	・スリランカ研修で作成したパワーポイント ・サリーバッグ
3 (1年)	「世界にはどんな国があるのか、知っていることを確認し、これから知りたいことについて考える」 ・世界には様々な国があるが、小学1年生が知っていることや、これから知りたいことを出させることで、次時からの学習への関心を高め、自分のこととして意欲的に参加することができるようにする	・世界の国について知っていることを書く ・スリランカについて現段階で知っていることについて書く ・スリランカについてどんなことが知りたいのかを考える	・ワークシート 【資料1】

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
4 本時 (1年)	「スリランカをたずねて、スリランカのことを知る」 ・スリランカの国について知り、日本や外国について関心をもつことができる	・外国について知っていることを言う ・本時のめあてを知る ・スリランカをたずねる ・本時の学習を振り返る	・スリランカから送ったはがき ・PCの写真データ ・PCのビデオデータ ・サリー ・アーユルヴェーダの水やオイル ・かるたの読み札 ・かるたの絵札となる写真(8セット) 【資料3】
5 本時 (1年)	「スリランカをたずねて、スリランカのことを知る」 ・スリランカの国について知り、日本や外国について関心をもつことができる	・前時を振り返り、スリランカにどんなものがあつたのかを思い出す ・スリランカについて、写真やビデオを用いて知る ・スリランカの曲に合わせて歌ったり、踊ったりする ・サリーの布の大きさについて体験する ・本時の学習を振り返る	・PCの写真データ ・PCのビデオデータ ・サリー ・サリーバッグ ・スリランカのはがき ・シンハラ語とタミル語のメモ ・スリランカの教科書 ・スリランカの絵本 ・振り返りのワークシート【資料2】
5 本時 (1年)	「スリランカをたずねて、スリランカのことを知る」 ・スリランカの国について知り、日本や外国について関心をもつことができる	・前時を振り返り、スリランカにどんなものがあつたのかを思い出す ・スリランカについて、写真やビデオを用いて知る ・スリランカの曲に合わせて歌ったり、踊ったりする ・サリーの布の大きさについて体験する ・本時の学習を振り返る	・PCの写真データ ・PCのビデオデータ ・サリー ・サリーバッグ ・スリランカのはがき ・シンハラ語とタミル語のメモ ・スリランカの教科書 ・スリランカの絵本 ・振り返りのワークシート【資料2】
6 (1年)	「国語科『歯がぬけたらどうするの』で、スリランカではどうするのかを予想する」 ・世界中の様々な国の中の一つであるスリランカについて考えることで、日本と同じように歯が抜けることや、その後の行動には同じように願いが込められていることを知り、世界はつながっていることを感じることができる	・国語科「歯がぬけたらどうするの」を学習し、スリランカでは歯が抜けたらどうするのかを、願いを想像しながら予想する ・スリランカで働く方のインタビューにより、答え合わせをする ・学習のまとめをする	・国語科の教科書 ・スリランカで働く方のインタビュー

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
7 (1年)	「道徳の時間『いただきますということ』で、食べることの尊さについて考える」 ・ 私たちの食卓に並ぶ食事には、それぞれ命があり、その命を頂いて私たちの命をつなげているということを考えることができる	・ 好きな給食のメニューについて発表する ・ 道徳の時間「いただきますということ」の学習で、日頃意識しにくい食事の食材になる前のことについて考える ・ 様々なものの尊い命を頂いていることを知り、感謝の心をもって食事を摂ることができるようにする ・ 学習を振り返る	・ スリランカの市場の写真データ ・ スリランカの市場のビデオデータ

【5】 本時の展開

学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
1. 外国について知っていることを言う。 2. 本時のめあてを知る。 3. スリランカるたをする。 ○ポスト（写真・実物） ㊦の箱は、日本にもあります。なんでしょう。 ○動物（写真・動画） ㊦スリランカいろいろな所に動物が。 ○お寺（写真） ㊦美しいね。どこで売られているお花でしょう。 ○カレー（写真・動画） ㊦給食で大人気です。美味しいよ。 ○茶畑（写真） ㊦畑です。一体何の畑でしょう。 ○薬局（写真・実物） ㊦を売っているお店でしょう。	・ 夏に担任がスリランカ研修へ行ったことを思い出させる。 ・ 児童が大好きな身近な遊びであるかるたを教材として用いることで、児童が意欲的に学習に取り組むことができるようにする。 ・ スリランカについての写真を絵札にしたものを用意する。読み札を教師が読み、クイズ形式のかるたを行い、その写真そのものについて予想しながら、スリランカの文化や生活様式について知ることができるようにする。 ・ 共通点があることを知った上で相違点があることにも気づき、互いに認め合うことができる雰囲気になるよう、児童のつぶやきを取り入れながら、授業を進める。	・ スリランカの国旗の写真 ・ スリランカからのはがき（夏休み明けに掲示したもの） ・ かるたの読み札（教師用） ・ かるたの絵札の写真（各班に1セットずつ） ・ PCの写真データ ・ PCのビデオデータ ・ アーユルヴェーダの水とオイル

○サリー（実物・写真・実演） ④きいです。 この布何に使うでしょう。 4. スリランカについて知ったことを写真やビデオ、実物などで確認する。 ・文字（写真・動画・実物） ・歌（動画・体験） 5. 本時の学習を振り返る。	・実際にサリーの着用場面を見せることで、日本との違いに気づきながらも、担任の着用を間近に見ることで、身近な衣類や文化の話であることを感じさせる。 ・授業前後での関心の高さの違いを確認し、日本や他国へのもっと知りたいという気持ちをもたせる。	・サリー ・PCのビデオデータ ・サリーバッグ ・シンハラ語の書かれたはがき、教科書、絵本 ・タミル語の書かれたメモ ・ワークシート
--	---	--

【授業実践の様子】



スリランカをた



サリーの実演



【6】 本時の振り返り

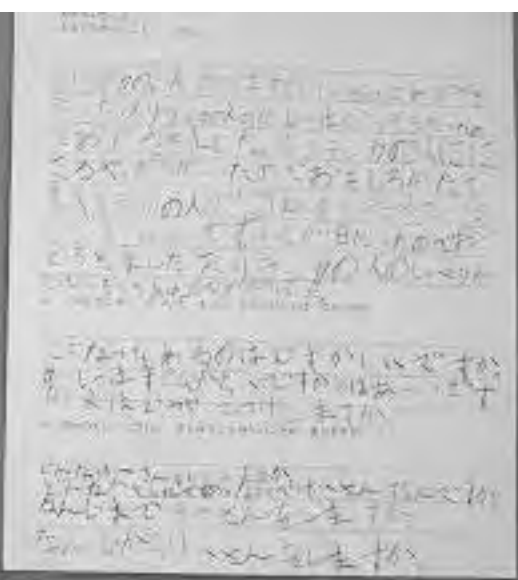
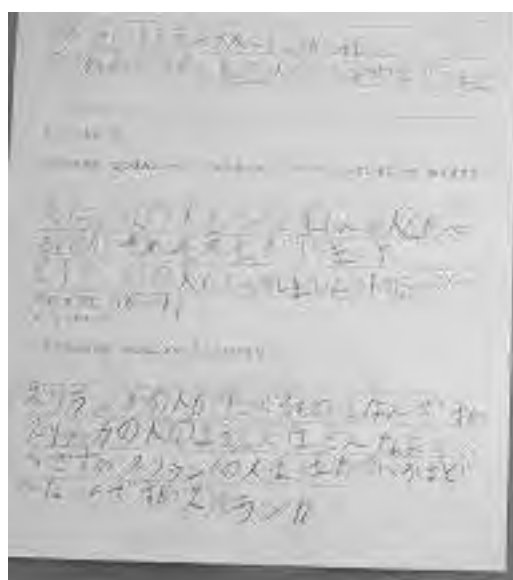
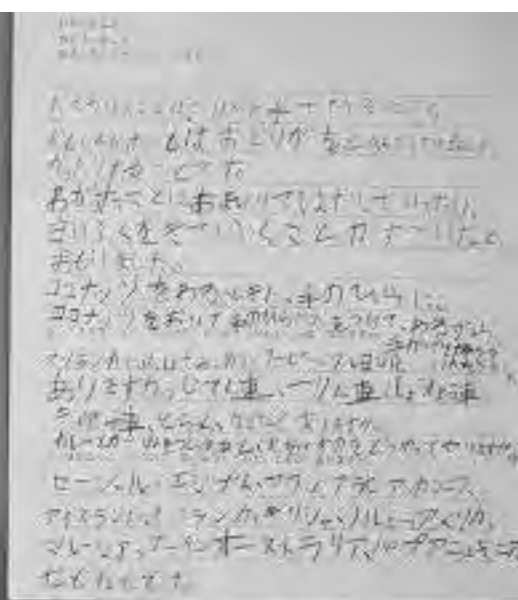
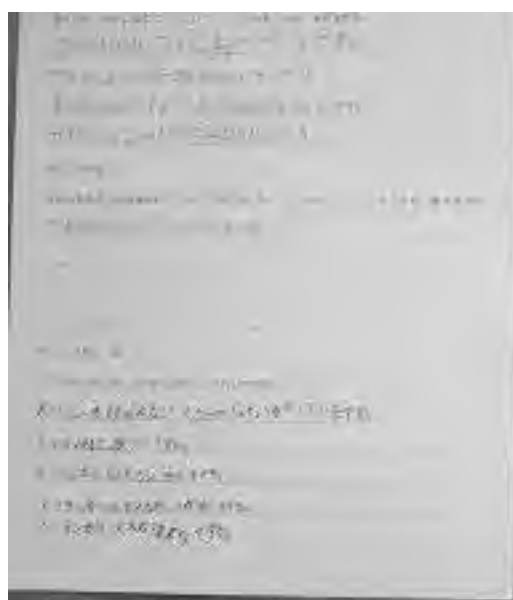
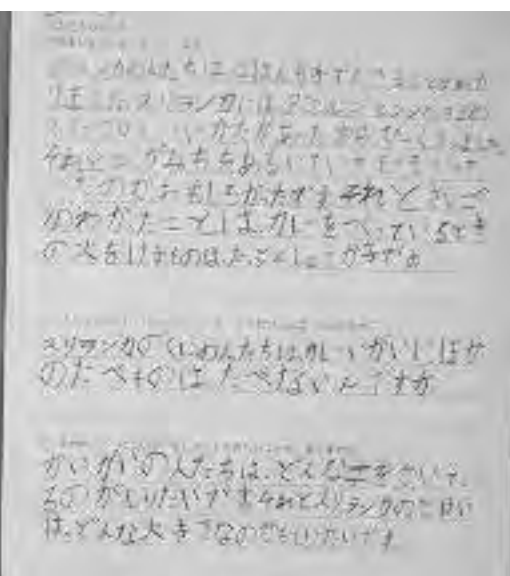
- ・児童はスリランカについて知りたいなという気持ちをもって、活動に意欲的に参加できていた。
- ・班の友達と相談しながら、なぜその写真を選んだのかをしっかりと考えさせたかったが、かるたとりに夢中になってしまい、相談という形は難しいと感じた。
- ・児童同士で写真をのぞき込み、予想しながら次の絵札について話す場面は見られたので、児童なりに写真からスリランカの様子は感じる事ができたようである。
- ・外国であることにばかり視点を与えるよりも、身近な存在としてスリランカや外国について知ってほしいという願いがあったため、日本で生活する中でも身近なものを教材として選ぶようにした。その中から共通点を見つけたり、相違点を発見したりすることで、それぞれの文化や生活様式に触れさせたいと考えた。
- ・スリランカで私自身が教わったサリーの着用方法を、身近な存在である担任が授業で実際に着用することで、児童が驚きと面白さを感じ、より身近な存在としてスリランカを捉えることができた。
- ・サリーの布の大きさに非常に関心が高く、どれくらい大きいかを体験させたいと考えた。そこで、学級全員をサリーの布で巻いて覆ったところ、児童は大喜びで大変印象に残り、その後のワークシートでの振り返りでもサリーの布の大きさに驚いたとの記載が多く見られた。
- ・スリランカのシンハラ語に訳された「むすんでひらいて」や「アブラハムの子」は日本でも馴染みがあった。そのため、児童はビデオに合わせて一緒に手遊びを楽しみ同じ歌もあることや、スリランカ独自の音楽に合わせて一緒に踊ることで旋律やリズムの違いなどにも楽しみながら気付くことができた。

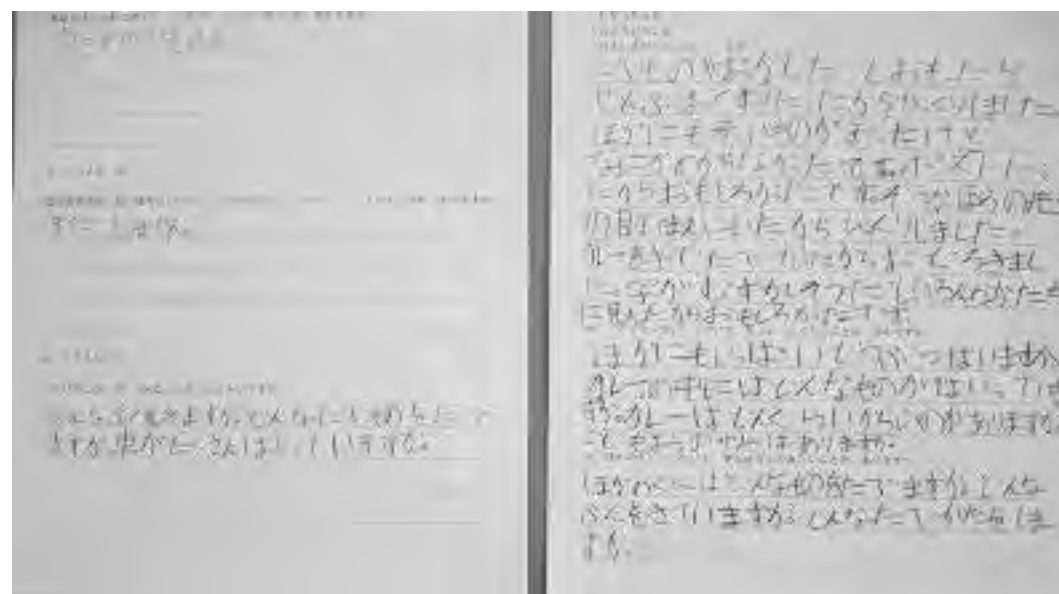
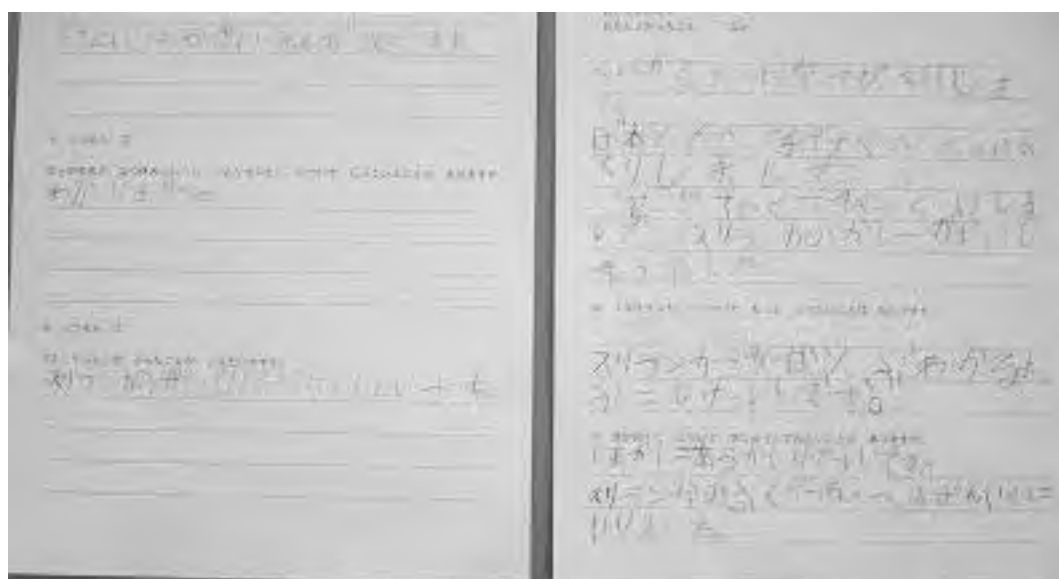
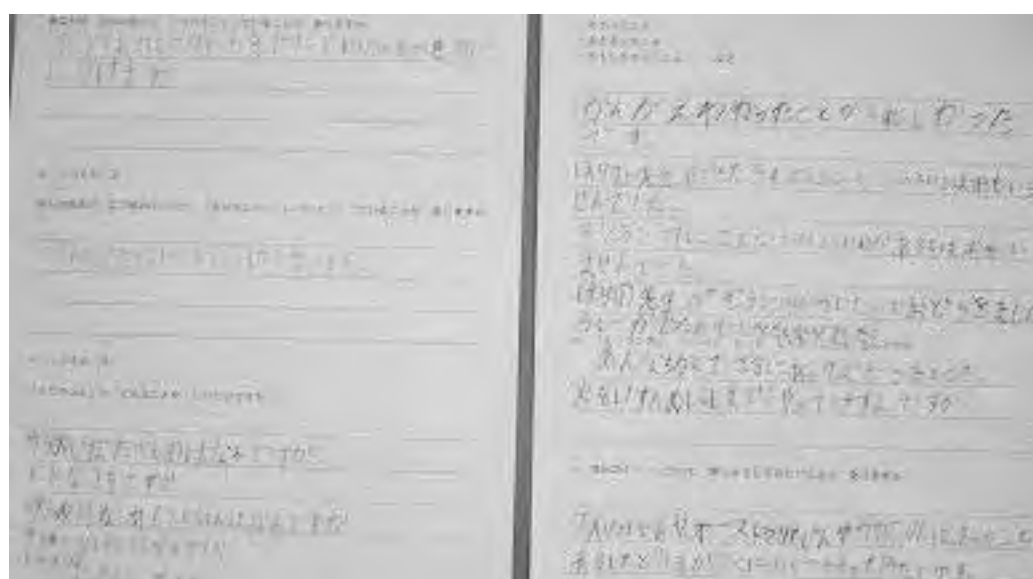
【7】 単元を通した児童生徒の反応／変化

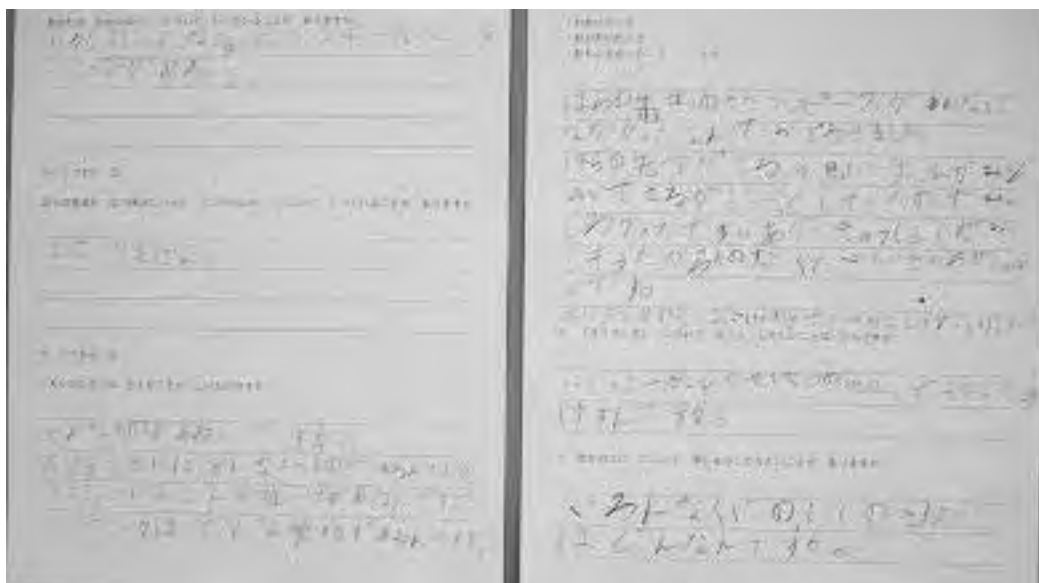
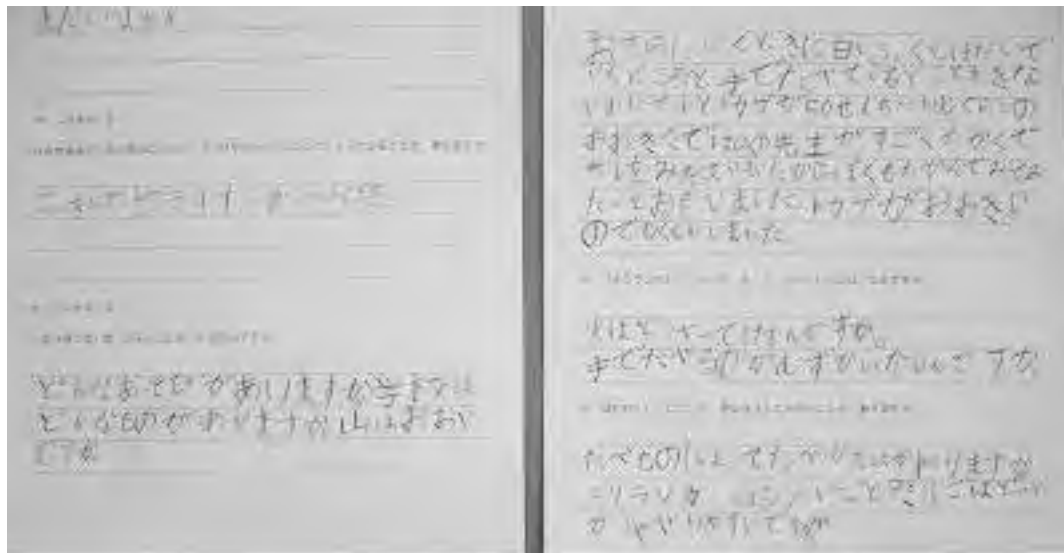
(左) 學習前



(右) 本時の学習後







【単元を通し変容した児童の態度や学習意欲】

- ・給食のカレーをととても楽しみにしており、「スリランカの人のように手で上手に食べてみたい」との声が多く挙がり、異文化を体験してみたいという意欲が高まった。
- ・スリランカだけではなく、「もっと他の国のことについても知りたい」「服はどんなのがあるかな」「インドでもカレー食べるのかな」等ともっと知りたいという積極的かつ具体的な質問がよくされるようになった。

【途上国・異文化への意識の変容について】

<授業前>

- ・知らないという児童が大変多い。
- ・そもそも日本以外の国について認知している児童もさほど多くない。

<授業後>

- ・途上国という概念がまだあまりないように思う。
- ・異文化については、「違って面白。」と捉え、前向きに感じているようだった。
- ・身近なところに異文化があることに気付いた児童も多い。

【8】 自己評価

1. 苦労した点

- ・何をどこまでどのようにどんなタイミングで学ばせたらいいのかについて考えたこと。
- ・事実は伝えることができるが、自分自身の感じ方や価値観を直接伝えないように、客観的に資料を見直したこと。

2. 改善点

- ・PCの不調も考えられるので、写真の印刷をしておくこと。
- ・事前アンケートの文面を児童の発達段階に合わせてさらに分かりやすく作ること。

3. 成果が出た点

- ・日本に関心をもち、発言する児童が増えたこと。
- ・様々な場面で、「これはスリランカだとどうなの」と尋ね、比較して考えようとする事。
- ・外国に関心をもち、世界の隣人として少し身近に感じ、もっと知りたいと前向きに捉えていること。

4. 備考・所感

- ・対象児童の年齢や発達段階、環境によってもっと様々な授業実践ができると感じたので、来年度以降も機会に応じて授業実践を行っていきたいと思う。
- ・南部と北部を両方研修で訪問することができたので、そこで見たことや聞いたこと、感じたことや学んだことについても、また環境や立場の違う日本の子ども達とともに学習していきたいと考える。

【参考資料】

- ・ JICA中国「2016年度 JICA中国ラオス教師海外研修授業実践報告書」

せかいのことを知っているかな？ ワークシート

1ねん1くみ 名まえ()

☆ しつもん ①

あなたは せかいのくに について 知っていることが ありますか。

☆ しつもん ②

はらの先生が なつ休みにいった 「スリランカ」 について 知っていることが ありますか。

☆ しつもん ③

「スリランカ」の どんなことが しりたいですか。

スリランカを しょう

1ねん1くみ 名まえ()

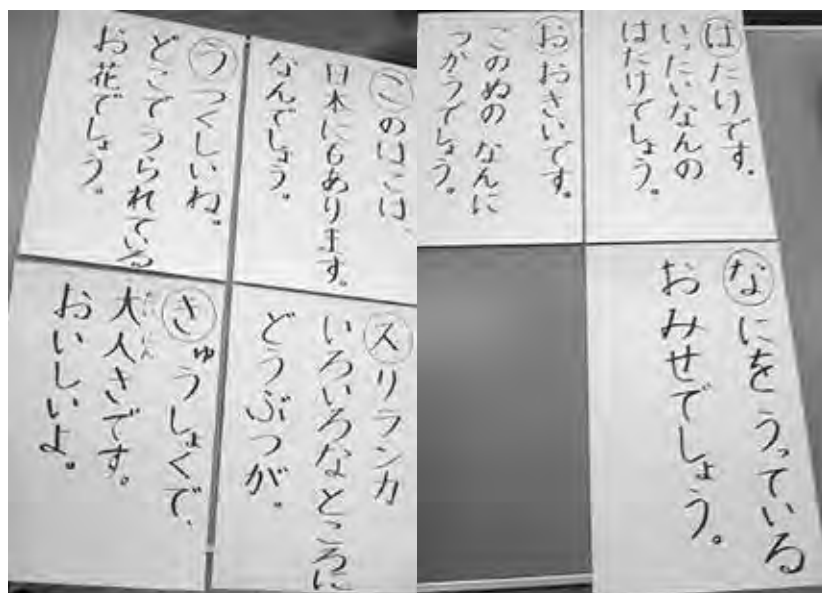
☆ 学しゅうを ふりかえって みましょう。

- ・わかったこと
- ・おどろいたこと
- ・おもしろかったこと など

☆ 「スリランカ」 について もっと しりたいことは なんですか。

☆ ほかのくに について 学しゅうしてみたいことが ありますか。

【資料3】 かるたの読み札と写真



授業実践報告

ジャパナ・ハパナ

氏 名： 藤島 真介
学 校 名： 修道中学校・高等学校
担当教科： 英語

時 間 数： 3コマ
実践教科： 英語
対象学年： 中学1年生
人 数： 96名×3クラス

【1】単元のテーマ・目標

- 日本人としての国際理解、共生理解を促す。
- スリランカや途上国の現状の中から、グローバルな視点で日本や日本人を再考する。
- 世界に目を向けられるようになる。
- スリランカを通じて、発展途上国の現状を知る。
- 日本の暮らしを当然視せず、発展途上国を含めた世界が発展する為の方策を考える。
- スリランカの戦争の歴史から、言語の壁や民族、国という区別が戦争に繋がるということを知る。
- 言語学習の大切さを学ぶ。
- 言語学習はツールで、多民族共生の為には他国の「歴史・文化」背景を知ることが大切だと学ぶ。
- スリランカの教育システムの中から、目の前の学習環境に感謝できる心を育てる。
- 教師海外研修で同行した先生方の姿から、「人を助けること」や「人に感動を与えること」の大切さを知る。
- 青年海外協力隊や現地で働かれる日本人のお話から、世界で働くことに興味関心を抱く。

【2】単元の評価規準例

（ア）関心・意欲・態度	日本とは異なる文化を理解し、共生を考えていく態度を醸成できるかどうか。
（イ）思考・判断・表現	学校教育のシステム等、内戦の経緯、今後のスリランカの発展をどのように捉えるか。また、どの様に国際社会に転換していけるかどうか。
（ウ）技能	授業で学んだことを今後の学習態度にどう転換できるか。
（エ）知識・理解	地理、歴史、文化の基本的な事項の把握。

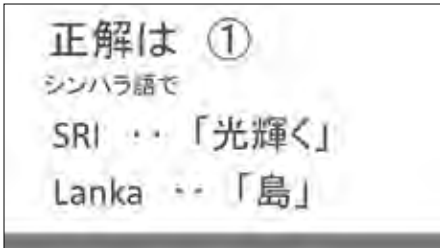
【3】単元設定の理由

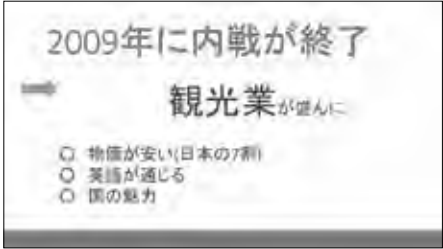
今回の教師海外研修で、目から鱗が落ちるような体験をたくさんしたが、研修を通じて最も感銘を受け、生徒たちに伝えたいと感じたのは、「日本人にしかできないことがたくさんある、それを最大限に活かせばもっと世界平和に貢献できる」ということである。生徒たちには、これからの将来自分たちの国と自分たちにもっと誇りをもって、枝葉末節の事象に流されず、世界の共生、共栄の為に切磋琢磨して欲しいという思いで、今回の単元の設定をした。

自分の学生時代を顧みても、自分の為や目の前のテストや受験ばかり意識して学んでいたように思う。生徒たちも学校のシステム上、それらを考えざるを得ないが、社会人になり「何の為に働くか」を考えるのではなく、今から何の為に学び、将来どのような世界を望み、その実現のためにどのように貢献していくのかということを念頭に置いて青春時代を過ごして欲しいと考えた。

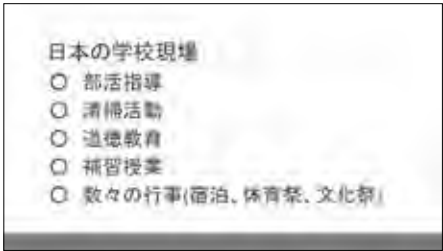
【4】展開計画（全2時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材								
1	「世界の中のスリランカ」	(1) スリランカに関する知識についてブレインストーミングを行う。 (2) グローバルな視点からスリランカについて考える。トピックスはスリランカの民族、地理、歴史、内戦、教育システム。	・写真 ・動画 ・パワーポイント								
2	「スリランカを通じて再考する日本人力」 ・その日本人力をさらに滋養するために、今からの学びを考えなおす。	(1) シンハラ語とタミル語であいさつをする。 公用語は二つ ① シンハラ語 ② タミル語 【スリランカの言語割合】 <table><caption>スリランカの言語割合</caption><thead><tr><th>言語</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>シンハラ語</td><td>74%</td></tr><tr><td>タミル語</td><td>18%</td></tr><tr><td>その他</td><td>8%</td></tr></tbody></table> シンハラ語ともタミル語も両方ともが公用語であることを確認し、そのパーセンテージを確認。 連結語としての 英語 シンハラ語もタミル語も両方話せる人は稀有である、それぞれの民族が共生するために英語がいるということを伝える。 シンハラ語 ආයුබෝවන් (アーユーボワン) タミル語 வணக்கம். (ワナツカム) <td>・写真 ・動画 ・パワーポイント ・サロン</td>	言語	割合	シンハラ語	74%	タミル語	18%	その他	8%	・写真 ・動画 ・パワーポイント ・サロン
言語	割合										
シンハラ語	74%										
タミル語	18%										
その他	8%										

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		 地図も使いながら北部では少数のタミル語が、南部では多数のシンハラ語が使われていることを説明した。 また全員であいさつを練習した。 (2) アイスブレーキングで簡単なスリランカに関するクイズを行う。 [第1問] スリランカの国の表記は？   [第2問] スリランカの場所は？  	

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		[第3問] スリランカの首都は？ [第4問] スリランカの国旗はどれ  (3) 生徒にスリランカに関する印象をインタビューした後、ポジティブな面も伝える。  [世界遺産]  (4) スリランカの魅力について考える。 [豊かな動植物]  [多彩な食文化/スタイル] 	

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		 (4) スリランカの課題について考える。 [①ゴミ・水問題]  キャンディのゴミ集積場 [②内戦]  北部に残る戦争の爪痕 [③知識型教育] ○ 教育は無償 ○ 給食システムはない ○ 宗教教育が展開される ○ 教育言語は学校によって異なる ○ 受験戦争は激しい ○ 生徒は8～9割塾通い ○ 終業は7:30～13:30  スリランカの教育システムの図	

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		○日本の教育システムがスリランカの教育に寄与している。  すららネットで学ぶスリランカの児童たち  日本の算数の小河式という計算法が採用されている ○日本学習環境の充実度を知る  (5) スリランカで働く日本人から学ぶ  日本人の方が障害を抱えた児童の為に学校を作った。それまではスリランカには根強い障害者への偏見があった。教育機会は平等ではなかった。	

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		 元スクールカウンセラーの二宮さん  元理学療法士の菅野さん  パルシクの伊藤さん 教師海外研修でお会いした、スリランカで奮闘されている日本人の方々から、働くこと、人を助けることを考えた。 (6) 学ぶことを考える。  学ぶ = +1 する 「can」が増える → 他人を助ける「Chance」が増える 「can」が増える → 他人を助ける「Chance」が増える 他人を助ける「Chance」が増える → お互いの「Smile」が増える 国語・数学・英語 社会・理科・家庭科 音楽・技術・美術 書道・体育 全ての学びを大切にする 目の前にある学びを大切にすることが、生徒が今できる最大の世界平和の為の貢献だと口添えた。	

【5】 本時の展開

学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
(1) シンハラ語とタミル語であいさつをする。 (2) アイスブレイキングで簡単なスリランカに関するクイズを行う。	展開の行程で、内戦などスリランカの課題などを深く掘り下げるので、最初はアイスブレイキングできるようになるべく明るい雰囲気にした。	・写真 ・パワーポイント ・サロン
(3) 生徒にスリランカに関する印象をインタビューする。 (4) スリランカの魅力について考える。	スリランカの課題を考えていく行程に向かう前なので、マイナスの面が強調されないようにした。	・写真 ・パワーポイント
(5) スリランカの課題について考える。 ① ゴミ問題について ② 内戦について ③ 知識偏重型の教育について	現状をなるべく正確に誠実にストレートに伝えた。	・写真 ・パワーポイント
(5) スリランカで働く日本人から学ぶ。	日本での職業経験や下積みが他国で貢献する時に役立っていることを伝えた。人の為にというのをグローバルな視点で考えられるようアシストした。	・写真 ・パワーポイント
(6) 学ぶことを考える。	遠い他国のことや、世界のことは遠く感じられるし、世界平和のためと考えるとそれが壮大すぎるように感じられるかもしれないが、生徒たちが学ぶことにどれだけの価値があるかが伝わるように工夫した。	・写真 ・パワーポイント ・サロン

【授業実践の様子】



授業風景①



授業風景②



授業風景③

【6】 本時の振り返り

当初の私自身の目論見としては、「発展途上国＜先進国＞」のような構図や方向性を生徒に残さないということだった。先進国、発展途上国というような言葉の区分すらを超えて、それぞれの文化、歴史、民俗、平和の大切さを感じ、それらを維持・向上し、お互いに共助・共生していくための方策を考えていけるように彼らになって欲しいと考えていた。生徒の意見は様々で、まだまだ真の意味での国際理解をし、平和活動を推進できるところまで考えが至らない生徒も勿論いたが、不透明で簡単な解が見つからない未来や、未来への問いかけに対して、自分たちの足で考えて進もうという意見が多く見受けられたことは嬉しく感じた。平素の授業は英語を担当しているのだが、英語学習(外国語学習)のモチベーションが上がったという声も聞いた。

【7】 単元を通した児童生徒の反応／変化

1時間という短い時間であったが、生徒たちは真剣に授業を傾聴し、思考を巡らせていたように感じる。1年生の地理の授業で、スリランカを簡単に学習していたこともあり、彼らの予備知識を発展昇華させたり、深い学びに繋げてくれたように思う。

＜授業後の生徒のアンケート抜粋＞

「スリランカはとても魅力的な国だと思った。いつか行ってみたいです」

「スリランカの現状と生活について、また発展途上国についても考える機会になった」

「日本は恵まれていると再度実感した。物を大切にしようと思った」

「戦争がないという状態が当たり前ではないことを知った」

「目の前の勉強頑張ります。世界に羽ばたいて働いてみたいです」

【途上国・異文化への意識の変容について】

＜授業前＞

途上国に関する基礎知識はあった。興味関心は旺盛である。

＜授業後＞

授業前から世界のことを学び、途上国に関するイメージは持っていたが、インタビューすると、「衛生環境が悪い」、「国内情勢が不安定だ」、「インフラ整備が整っていない」などという意見も多かった。

また、ニュースなどに興味がなく、世界に目が向いていない生徒もいたように感じるが、今回の授業を通じて、日本がグローバルスタンダードではないということを強烈に感じてくれたように思う。「自国の当然が、他国の当然でない」ということを踏まえて、これからの学びに臨んでくれることは大きな収穫である。また授業後、学校が運営するfacebookページで授業が取り上げられたこともあり、家庭で他国の暮らしぶりなどが話題に挙がったというのも嬉しい知らせであった。

【8】 自己評価

1. 苦労した点

勤務校では、なかなか授業進度を変えて、イレギュラーの授業時間を捻出することにも苦労があった。スリランカでの教師海外研修を終えてから、フィードバックの授業の打診をしたのが反省である。教師海外研修への参加が決定した時点、ゴールイメージを持つと同時に、校内での動きをもっと抜かりなくやっておくべきであった。

結果として1種類の授業を3コマ展開させて頂くことになったのだが、教師海外研修における濃密な学びを1時間という限られた時間に凝縮することは大変であった。例えば「戦争」について考えさせようとしたときでは、多民族が共生しているという「歴史」、それぞれの民族が使う「言語」など、様々な要素が複雑に絡み合ってい

る。そのため、なかなかテーマを絞っても、深い学びにするには取り除けない要素が多くあることも悩みの種であった。

2. 改善点

- 授業の中で、生徒に「スリランカの印象」を尋ねる場面があったのだが、その時に「発展途上国としてのスリランカの印象はどうですか?」と生徒に発問してしまう場面があった。授業の展開として、「発展途上国にマイナスのイメージはあるかもしれないが、こんなに魅力的なところがある」という流れにしようという気持ちが強すぎたことが原因であると考ええる。もっと生徒の素直な意見をインタビューして、その中から次の展開を作っていくようなゆとりをもって授業を展開していけば良かった。
- やはり授業の中に様々なトピックを盛り込みすぎたように思う。生徒たちは本当に真剣に耳を傾けてくれたし、そのことに感銘も受けた。しかし、駆け足で授業を展開せねばならない場面もあったので、断腸の思いでも、しっかり伝えることを精選する作業がもっと必要だった。

3. 成果が出た点

勤務校は中高一貫六カ年教育で中一から大学を意識したカリキュラムでの教育を目指しているのだが、ややもするとテストの点数や成績にばかり目が向いてしまう生徒も出てくる。今回の授業を通して、スリランカの教育事情を伝えることが出来たのは本当に大きなものだった。学びは水のように日本人にとって当然視されるものであるが、世界には教育も水も当然あるものと考えられない場所があるということを彼らが実感してくれたことは大変価値あることである。この授業を通じて、生徒とともに「学び」を再考していくことができた。「学び」は「他を知る」ことで、テストで点数を取るための道具ではない。「他を知る」ことで「他を助ける」ことができる。「他を助ける」ために学ぶことができたならどれだけ幸せで、価値があるかということを生徒ともに語りあえたことが本当に良かった。

【参考資料】

<書籍>

「2016年度JICA中国 ラオス教師海外研修 授業実践報告書」/JICA中国

<Website>

外務省スリランカ基礎データ (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/srilanka/data.html>)

スリランカを入口に 世界に目を向けよう

氏 名：江國 友哉
学 校 名：岡山市立山南中学校
担当教科：英語

時 間 数：5時間
実践教科：英語、総合
対象学年：1、2学年
人 数：28～125人

【1】単元のテーマ・目標

異国の文化や生活について知り、価値観の違いについて理解する。また、学習を通して、現代社会が抱える課題について知り、これからの社会について、考えていかなければならないということに気付く。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	異国の文化や生活について関心をもつ。また、現代社会、そして未来の社会について考えようとする。
(イ) 思考・判断・表現	グループ内の話し合いや、グループ間の交渉において、自分の思いを言葉で表現することができている。また、学習を通して感じたことや学んだことを、自分の言葉で表現している。
(ウ) 技能	異国の文化や生活習慣、価値観、また現代社会が抱える課題について理解している。
(エ) 知識・理解	異国の文化や生活習慣、価値観について知る。また、現代社会が抱える課題について知る。

【3】単元設定の理由

<生徒観>

本校は岡山市内の中でも、1学年2学級、全校生徒200名程度の小規模校である。本校は、4つの小学校区からなり、ほとんどの生徒は、幼少のころより小集団での学びを経験してきている。そのためか、競争意識の低さや、ものごとに対する視野の狭さが懸念される。また、全体的に自分の思いや考えを伝えることが苦手な生徒も多い。

そのため、異文化を学ぶことで、視野を広げ、自分たちとは異なる文化、生活習慣、価値観があることに気づかせたい。グループ活動に対しては積極的に取り組もうとする生徒が多く、グループ活動を取り入れることで、生徒の積極的な参加を促し、学びを広げたり、深めたりさせたい。

<教材観>

本単元は、「異文化理解」と「開発教育」を目的としている。スリランカという聞き慣れない国、かつ途上国の文化や生活習慣、価値観などを学ぶことで、生徒の途上国に対するイメージの変容や、自分たちとは異なる文化や価値観があることに気付かせたい。

さらに、貿易ゲームを通して、現代社会が抱える課題について、体験を伴った理解を目指す。振り返りとして、それまで学習してきたスリランカとは違った一面を見せることで、より深い理解を促し、これからの社会について考えるための芽を育みたい。

<指導観>

本単元では、異国の文化や生活習慣、自分たちとは異なる価値観を知ること、異文化を理解しようとする態度の醸成を目指す。また、本校の研究主題である「自らの考えを表現し、伝え合う力を持つ生徒の育成～確かな学力の定着を目指して～」をふまえて、学びの中で生徒のコミュニケーション能力や表現力を高め、伝え合う力を育成したい。

【4】展開計画（全5時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
0時 1年生	「スリランカと日本の関係について知ろう」 ・帰国後の実践に向け、生徒の関心を高める	「スリランカと日本の関係について知る」 (1) スリランカの国旗を見せる（国名のわかる生徒はいない）。 (2) 第2次世界大戦後の日本分割統治案について知らせる。それを救ったのが、スリランカ（当時のセイロン）大統領のスピーチであることを知らせる。 (3) 1951年のサンフランシスコ講和会議でのジャワルダナ大統領のスピーチ「憎しみは憎しみによって止まず、ただ愛によってのみ止む」を紹介し、ジャワルダナ氏の片目は日本人に移植されたエピソードを伝え、スリランカは日本にとって恩ある国であることを知らせる。 (4) お土産を作る（扇子に筆ペンで漢字を書く） ※夏休みの課題のひとつである「調べ学習」のテーマを1、2年生ともに「スリランカ」とした。 おみやげに作成した扇子	・筆ペン ・扇子 ・掲示資料
1時 1年生 2年生	「スリランカについて知ろう」	「スリランカについて知る」 (1) お土産に購入したセイロンティーのティーバッグを配り、香りを楽しむ。 (2) スリランカで購入した「サロン」について紹介し、異文化にふれる。 (3) 研修についてのムービーを視聴し、スリランカの雰囲気を掴む。 (4) スリランカについて、位置や面積、人口、宗教、言葉などをクイズ形式で出題し、スリランカについての基本的な知識を得る。 (5) スリランカに限らず、日本と海外の違いを考える題材として、関西国際空港から、香港空港、コロンボ空港、スリランカの街中のトイレの案内（料金について）を紹介する。世界全体を見ると、トイレが有料の国の方が圧倒的に多い事実を伝え、生徒たちに理由を考えさせた。生徒たちは、日本の当たり前が、世界の当たり前ではないという一つの事実気付くことができた。	・セイロンティーのティーバッグ（1人1つ） ・スライド資料【資料1】 ・現地衣装

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		 サロンを紹介する様子	
2時 1年生 2年生	「スリランカの文化や生活習慣を知ろう」	「スリランカについて知り、考える」 (1) 動物編 ホテルの近くやシーギリヤ周辺の動物達の写真を見せ、人々と動物たちの距離感について知り、日本との違いを感じる。特に、本校では時に猿が出没し、帰宅途中に十分に注意するよう呼びかけを行う場合がある。しかし、シーギリヤの写真からは、子連れの母猿が人々、それも観光客ばかりのすぐ近くを平然と歩いている。このことから、子ども達は、スリランカの人々が、動物達にやさしく接し、うまく付き合っていることに気付くことができた。  授業の様子（動物編） (2) 宗教編 ・仏歯寺の写真を見せ、宗教が生活の一部となっていることを知る。また、先の内戦において、仏歯寺が狙われたことについて伝え、その理由を考えることで、スリランカの人々にとっての宗教の大切さに気付かせる。 ・スリランカ北部のヒンドゥー教のお祈りのし方の映像を見せ、何をしているのかについて考えさせた。ココナッツを割っているのは、邪気を払うためではないかと予想を当てることができた生徒もあり、宗教や信仰の違いを、より具体的に感じることができた。	・スライド資料 ・現地衣装

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		(3) 食べ物編 カレー料理が多いが、日本のカレーとの違いや、カレー以外の様々な食べ物を紹介する。食べ方の動画を見せ、日本で、「手掴みで食べる」というと、汚いなどのネガティブなイメージを思い浮かべるが、手で食べるにも作法があり、現地の料理に合った食べ方であることを伝え、生徒たちは文化や習慣の違いについて理解することができた。 (4) 環境編 キャンディ市内や世界遺産であるシーギリヤにゴミが落ちている様子を見せ、生徒たちにどう思うか問いかける。その上で、観光客の責任が大きいことを伝え、シーギリヤの自然の中に捨てられている1本のペットボトルの写真を見せ、周りに大勢の人がいるが、誰も拾おうとしない。「自分ならどうする?」と問いかけた。さらに、海外旅行に限らず、日本国内、集団生活の場である学校でも同じではないか、と問いかけ、遠く離れた国の出来事ではあるが、根本的な部分は、日常生活とつながっていることを気付かせた。 (5) 日本人に対するイメージ 最後に、スリランカで聞いた「ジャパナハパナ」と、日本人に対するイメージに関するインタビューを紹介し、身近な日本人（リトルツリーの馬場先生）の印象が、そのまま国や人のイメージになっていることを伝えた。先人の方々の努力や支援によって、現在、日本人が好かれている国々は多くあり、自分自身、そして生徒たちにも、そういった良い面を引き継いでほしいという思いを伝えた。	
3時 1年生	「スリランカの人々が大切にしているものについて知ろう」 標識や注意書きを通して、スリランカの人々が大切にしているものを知り、文化や価値観の違いについて理解することができる	「標識や注意書きからスリランカの人々が大切にしているものについて知る」 (1) 「命令文」の学習として、街中や仏歯寺、シーギリヤで見られた標識（英語）を見せる (2) シーギリヤに設置されていた標識を見せ、何をしてはいけないのか読み取らせる →歴史的に価値のあるものを傷つけたり壊したりすると逮捕される →ミラーウォールに触れてはいけない など ※日本でも法隆寺などへの落書きがあったことを伝え、国内外問わず、守らなければならないルールがあることに気付かせる。 (3) ブッダ像についての注意書きを見せ、何をしてはいけないのか読み取らせる →ブッダ像に背を向けて写真を撮ってはいけない ※過去に仏像と肩を組んだ写真を撮った外国人観光客が逮捕された例を紹介し、海外旅行のような特別な場面だけでなく、日常生活でも、相手の大切にしているものを尊重することの重要性に気付かせる。	・スライド資料

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		 コロボ空港のブッタ像  ブッタ像の注意書き	
4、5時 1年生 本時	「貿易ゲームを通して、世界の『差』を感じ、これからの社会について考えよう」 貿易ゲームを通して、世界にある“差”を、身をもって知り、現在の社会の在り方、今後の社会について考えることができる	「貿易ゲームを通して、世界にある“差”を体感し、これからの社会を考える」 ※事前の授業で、「ファッションレボリューション」の動画を見せ、途上国の苦勞があって安い製品が生産され、自分たちのものに届けられている現実もあることを伝えておく。 (1) 貿易ゲームについて説明 ・ゲームの方法（ルール、進め方、マーケットの仕組みなど）について知らせる ・制作する図形について知らせる（英語で導入） ・グループ内の役職について知らせる（英語で導入） (2) 各グループ内で役職を決める。 (3) 道具、材料一式を入れた封筒を各グループに配布する。 (4) 各グループ内で相談をしながら、図形の制作を進める。 (5) 他グループとの交渉（貸し借り、売買など）を解禁する。 (6) 頃合いを見て、途上国のグループに資源が加算される。 (7) 頃合いを見て、役職交代タイムを設ける。 (8) 結果を集計し、振り返りをする ・初めの状態は？ ・A4用紙や道具が表していたものは？ (9) スリランカで出会った「花売りの少年」のエピソードを紹介し、世界の貧困や、学校に通えない子ども達について知らせる。	・スライド資料 ・掲示資料 【貿易ゲームで使用する道具】 ・A4用紙 ・図形制作用の道具一式 ・紙幣

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		(10) 本日の学びや感想をクラス全体で共有する。子どもたちは、貿易ゲームとスリランカのエピソードにより、世界で起きていることを、より自分事として捉えることができ、これからの社会について考えることができた。	
(その他) 一般対象	平成29年度 第4回岡山市国際交流ふれあい講演会「ここがええんじゃ！岡山人」（岡山市・岡山市国際交流協議会）	(1) 教師海外研修の概要（目的や行程など）について知らせる (2) スリランカの街並みや生活の様子、研修の学びなどをまとめた5分程度のムービーを流し、スリランカという国の雰囲気や研修の様子を知ってもらう。 (3) スリランカの国民性や生活習慣などを紹介する。 「写真でわかるスリランカ」 ・動物編 ・食べ物編 ・環境編 (4) 生徒たちに伝えたいこと ・日本人のイメージ ・「ジャパナハパナ」 (5) 質疑応答 (6) セイロンティー試飲&ジンジャークッキー試食会  講演会の様子	

【5】 本時の展開

学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
(1) 貿易ゲームの方法について知る	事前の授業で、「ファッションレポリビューション」の動画を見せることで、現代社会の課題に対する関心を高めておく。 ・ゲームの方法（ルール、進め方、マーケットの仕組みなど）について知らせる。 ・制作する図形について知らせる（英語で導入） ・グループ内の役職について知らせる（英語で導入）	【掲示資料】 ・ルール ・制作する図形 ・グループ内の役

(2) 各グループ内で役職を決める。それぞれの役職の名札をかける。	・各役職の役割を知らせ、相談タイムを設ける。それぞれの役職の名札をかける。 ○大統領：グループをまとめる。最終決定権をもつ。 ○外交官：他国との交渉にあたる。 ○貿易会社：マーケットに製品を売ることができる。 ○エンジニア：製品の制作に集中できる。 ※製品の制作はエンジニア以外も可能	・役職用名札
(3) 道具、材料一式が入った封筒を確認する。 (4) 各グループ内で相談をしながら、図形の制作を進める。できた図形をマーケットに売る。	・各グループに封筒を配り、一斉に開封する。このときは、他のグループの様子を見に行ってもいけないことを知らせる。 ・開始5分後に、外交官のみが他のグループの様子を視察でき、グループのメンバーに伝えることができるようにする。	【封筒に入れた道具一式】 ・ えんぴつ ・ コンパス ・ はさみ ・ 鉛筆削り ・ 定規 ・ 紙幣 ・ A4用紙 ※グループ間の差を設ける
(5) 他グループとの交渉（貸し借り、売買など）ができるようになる。 (6) 途上国のグループのうち、2つはA4用紙を追加される。	・ 教師側はマーケットとクラス内の様子を見守る役の二手に分かれる。 ・ 泥棒や暴力などがなく、クラス全体を見守り、参加できていない生徒の参加を促す。	
(7) 活動を再開する。役職交代がある場合は交代する。マーケットの審査が厳しくなったことを知る。	・ 頃合いを見て、途上国のグループに資源を加算する。 ・ 休憩時間中は、すべての作業と交渉をストップするよう指示を出す。再開後に役職交代が可能であることを伝えておく。 ・ 役職交代の時間を設け、名札の交換を確認する。 ・ 活動再開直後に、マーケットの審査が厳しくなったことを伝え、引き続きクラス全体を見守る。 ・ 終了5分前から声掛けを始め、終了の合図を出す。	
(8) 集計結果をふまえて、振り返りをする	・ 最終結果を集計し、振り返りをする。 ○初めの状態を見て気付くことは？ ○A4用紙や道具が表していたものは？	・ スライド資料

(9) スリランカで出会った「花売りの少年」のエピソードを聞き、世界の貧困や、学校に通えない子ども達について知る。	・スリランカで出会った「花売りの少年」のエピソードを紹介し、世界の貧困や、学校に通えない子ども達について伝える。その上で、いまのままの社会でよいのだろうか？と生徒たちに投げかける。	
(10) 本日の学びや感想を紙に書き、クラス全員で輪を作り、全体に向けて発表する。	・本日の学びや感想を紙に書くよう指示を出し、クラス全体で共有できるよう、輪を作るよう指示を出す。	

【授業実践の様子】



貿易ゲームのルール説明

初めの状態は？

班	備品・道具
2班	鉛筆5本、ハサミ3つ、定規2つ、コンパス3つ A4紙15枚、1000ドル
6班	鉛筆3本、ハサミ2つ、定規2つ、コンパス2つ 鉛筆削り1つ、A4紙1枚、700ドル
1班	鉛筆1本、ハサミ1つ(ミニ)、コンパス1つ A4紙5枚、200ドル
5班	鉛筆1本、ハサミ1つ(ミニ)、定規1つ A4紙1枚、200ドル
3班	定規1つ A4紙20枚、(100ドル)
4班	鉛筆1本 A4紙1枚(油田発掘で+5枚)、40ドル

振り返りスライド



振り返りスライド②



振り返りスライド③

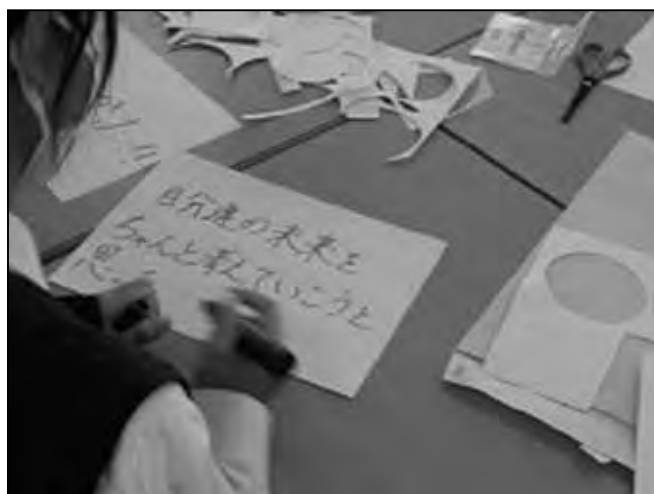
1日1ドル以下で
生活する人の数は？

- ① 11億人
- ② 3億人
- ③ 1億人

振り返りスライド④



生徒の感想①



生徒の感想②



感想の共有

【6】 本時の振り返り

中学1年生にとって、貿易ゲームは難しいのではないかと声もいただいたが、役職をはっきりさせ、ルールの明確化、タイムキープによって、スムーズに行うことができた。また、作業を多く取り入れたため、支援が必要な生徒も参加することができ、クラス全体が課題に対して積極的に取り組むことができた。後半では、それまでの授業で伝えていたスリランカとは異なる一面を切り取って伝え、現在の社会が抱える課題について伝えたことで、生徒たちは、より関心をもってこれからの社会に目を向けることができた。

【7】 単元を通した児童生徒の反応／変化

授業の初めは、なぜグループごとの紙の枚数や道具に差があるのか、見当がつかず、ただ不公平に感じている生徒も多かったが、活動の後半に進むにつれて、意図に気が付き始める生徒も見られた。振り返りでは、道具やA4用紙が表していたものや、マーケットの審査が厳しくなった理由にすんなりと気付くことができた。スリランカの「花売りの少年」のエピソードを伝えることで、自分たちと同じ年頃の子ども達が働いている国もあることに気付き、振り返りのスライドでは、世界では多くの人々が貧困に苦しみ、また学校に通うことのできない子ども達も数多くいるという現実を知ること、現代社会の課題に気付き、このままではいけないと思うことができるようになった。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

研修前の事前授業では、なぜスリランカに行くのかと疑問をもっていた生徒たちも、帰国後にスリランカについて、話をする中で、興味を持ち始める生徒は多かった。また、貿易ゲームを通して、現代社会が抱える課題に気づき、これからの社会を考えるきっかけになった。

○生徒の反応（異文化理解に関して）

- ・スリランカは思っていたよりも良い国そうだった。
- ・一つの国の中に異なる言葉や宗教があると知って、驚いた。

○生徒の反応（貿易ゲームに関して）

- ・不公平を強く感じた。ゲームだからまだ良いけど、日常生活だったら、と思う。
- ・世界の違いを知ることができて良かったし、びっくりした。
- ・自分たちの未来をきちんと考えていこうと思った。

【途上国・異文化への意識の変容について】

＜授業前＞

途上国、と聞くと何となく遅れているとか、不便、治安が悪いなどのイメージをもつ生徒は少なくなかった。手で食べるということに抵抗感を覚える生徒も多くいた。教師海外研修の事前研修でも、日本の国際理解教育のあり方について、先進国寄りであることを示されていたが、実際にその通りで、スリランカの国旗を知っていた中学生はいなかった。また、海外研修の事前授業で、スリランカに行くことを生徒に伝えたところ、なぜスリランカなのか？と疑問をもった生徒も多く、もし欧米の国に旅行に行くという話であれば、羨ましがらる生徒はいても、疑問に感じる生徒はほとんどいなかったのではないと思われる。

＜授業後＞

帰国後、まずスリランカの国旗を見せたところ、ほとんどの生徒がスリランカの国旗であることを覚えていた。出発前の授業で、関心を高められていたからだろう。帰国後の授業で生徒がまず関心をもったのは、コロンの様子であった。ビルが立ち並び、多くの自動車が走っている様子を見て、本当に途上国？と思う生徒が多く、つかみとしては成功であった。手で食べる習慣についても、現地で実際に行った経験をもとに、その理由として感じることを伝えたところ、生徒たちは、文化や習慣などの違いとして理解することができた。生徒たちにとって、印象的だったのは、スリランカの人々と動物たちとの付き合い方であったように思う。日本では、野生動物は危ないものとして教えられるが、生徒たちは自分たちの日常とは異なる価値観に気付くことができ、途上国に対して、少なからずポジティブなイメージをもつことができるようになったのではないかと考える。

【8】 自己評価

1. 苦労した点

まずは、生徒に伝えたい、考えさせたい様々な情報の中から、いま生徒に伝えるべきものを抽出する点。今回は、貿易ゲームを行ったため、必要な道具の購入をはじめとした事前準備。また、これまで国際理解教育に対してあまり積極的に取り組んだことのない生徒、地域柄、また生徒指導上の問題といったことへの配慮を含めて、周囲の先生方の理解と協力を得られなければ、今回の授業実践は成し得なかったことと思う。

2. 改善点

今回は、自分が教師海外研修に参加したという名目で、特別授業を行うことができたが、そういった背景がなければ、カリキュラムに組み込むことが難しい現場もあると思う。今後、他校で実践していくにあたっては、例えば、教科横断プログラムを組み立てたり、異文化理解を総合学習に組み込んでいくといったことが必要かもしれない。

3. 成果が出た点

スリランカという、生徒たちにとって、聞きなれない国であったと思うが、自分が現地で見たリ、感じたりしたことをストレートに伝えることで、生徒の素直な反応を引き出すことができた。まずは、ポジティブな面を伝え、次に異なる角度からの一面を伝えることで、生徒の知的好奇心を刺激し、これからの社会について考える良いきっかけになったと思う。

4. 備考・所感

- ・授業で使用した写真およびスライドは膨大な枚数に及ぶため、抜粋とした。
- ・授業で使用した動画は、ムービーメーカーを使用した私製のものである。

【参考資料】

<書籍>

- ・「どうなってるの？世界と日本」JICA
- ・「私たちが目指す社会」ハンドブック

<Webサイト>

- ・「開発教育・国際理解教育ハンドブック」
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/edu/kyouzai/handbook/index.html>
- ・「スリランカ民主社会主義共和国」
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/srilanka/index.html>
- ・「世界一の親日家 ジャヤワルダナ大統領」
http://www.sut-tv.com/sp/show/terakoya/backnumber/post_353/
- ・Wikipedia「ジュニウス・リチャード・ジャヤワルダナ」
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B8%E3%83%A5%E3%83%8B%E3%82%A6%E3%82%B9%E3%83%BB%E3%83%AA%E3%83%81%E3%83%A3%E3%83%BC%E3%83%89%E3%83%BB%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%83%A4%E3%83%AF%E3%83%AB%E3%83%80%E3%83%8A>

2017 教師海外研修
～スリランカ編～

- 中国地方の教員7名
- 小・中・高・中高一貫
- 8/8～8/17(10日間)

5分でわかる！
2017 教師海外研修ムービー
～スリランカ編～

スリランカ
= Sri Lanka
Sri(光り輝く) + Lanka(島)

スリランカ3択もんだい！

スリランカってどこにある？



正解は 3



スリランカの大きさは？

- ① 6.6万 km²
- ② 37.8万 km²
- ③ 770万 km²

正解は 1

- ① 6.6万 km² (スリランカ)
- ② 37.8万 km² (日本)
- ③ 770万 km² (オーストラリア)

スリランカの人口は？

- ① 800万人
- ② 1300万人
- ③ 2000万人

正解は 3

- ① 800万人（ニューヨーク）
- ② 1300万人（東京都）
- ③ 2000万人（スリランカ）

スリランカの主な宗教は？

- ① イスラム教
- ② 仏教
- ③ ヒンドゥー教

正解は 2

スリランカで使われている言葉は？

- ① Hello
- ② ආයුබෝවන්
- ③ வணக்கம்

正解は 全部

- ① Hello（英語）
- ② ආයුබෝවන්（シンハラ語）
- ③ வணக்கம்（タミル語）

「知らない外国」から「行ってみたい場所」へ

氏 名：下松谷 智江
学 校 名：防府市立牟礼中学校
担当教科：英語

時 間 数：7時間
実践教科：英語 学級活動 学年朝の会
対象学年：1・2年
人 数：28人（1年2組）・82人（第1学年）

【1】単元のテーマ・目標

- ・旅行の準備をととして漢字や日本文化について考え、自分の国に興味をもつ。
- ・これまでに学習した英語を使って、スリランカに関するクイズに取り組む。
- ・言葉が分からないときや文字が読めないときの気持ちを体験したり、解決するための工夫を考えたりすることを通して、コミュニケーションについて考える。

【2】単元の評価規準例

（ア）関心・意欲・態度	各課題に興味をもち、積極的に取り組むことができる。
（イ）思考・判断・表現	課題への取り組みから、自分の意見をもつことができる。
（ウ）技能	
（エ）知識・理解	スリランカや日本の文化・歴史、2国のつながりについて知る。

【3】単元設定の理由

＜生徒観＞

1小1中で、ほとんどの生徒が9年間を一緒に過ごす環境の中で、生徒同士の距離が近く、自由に自分を表現できる生徒が多い。一方、保守的な面も見られ、新しいことに挑戦することをためらう生徒や、中学校卒業後も地元を離れることなく、ずっと地元で暮らしたいと考えている生徒もいる。班での話し合い活動や、個人での意見をまとめる作業に生徒は自然に取り組むことができる。

＜教材観＞

現地研修の前と後に授業をすることで、教師も生徒も一緒になってbefore / afterを経験し、教師自身の変化をととして生徒に伝えられるものがきっとあると考えた。出発前に日本からの土産やスリランカについて知りたいことを考えることで日本文化の学習に、外国でのコミュニケーションという点から英語科の学習に、さらにシンハラ語やタミル語といった未知の文字に出会うことで、読み書き（識字）についても考えるきっかけになればよいと考えた。

＜指導観＞

知らない場所へ行くことのドキドキワクワクした気持ちや不安な気持ち、日本ではできない現地での体験をありのままに伝えたい。授業を通して日本と外国とのつながりについて考え、「外国に行ってみたい」と生徒に感じてもらいたい。

【4】展開計画（全7時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「これからの学習について知る」	1年生の朝の学年集会で、①インターネットやSNSなど、世界中から瞬時に情報が交換できる便利さ、②海外で活躍する日本人、③スリランカ研修について、④これからの学習について、話をした。	・スリランカの国旗
2	「日本文化について考える1（漢字、日本語）」 ・和英辞書を使う。 ・選んだ漢字を英語で紹介する。	外国の人に紹介したい漢字を一文字選び、英語での意味やイラストと合わせて紹介するカードを作った。 班で話し合うことで、同じ漢字のカードが複数できたり、漢字が思いつかない生徒がいたりするのを避けた。	・和英辞書 ・色画用紙（ハート型） ・ホワイトボード（小） ・マジック
3	「日本文化について考える2」 ・現地での情報収集に役立てる。 ・2学期の学習への関心をもつ。	次の項目についてアンケートをとったあと、班で話し合った。 ①スリランカについて知っているか。 ②スリランカについて知りたいことは何か。 ③日本からのお土産は何がよいか。	・アンケート用紙 【資料1】
4	「Quiz Sri Lanka in English」 ・スリランカについて知る。（生活、現在の様子）	スリランカの国旗や通貨、食べ物、研修中のできごとなどについての英語のクイズに班対抗で取り組んだ。	・スリランカで撮った写真 ・英語で作ったクイズ
5	「この写真の続きは？」 ・スリランカについて知る。（内戦について）	事前に写真の一部を見せて、周りの風景を想像して描いておくことを宿題にした。 朝の学年集会で、写真全体を見せ、まっすぐに続く道路の写真からほんの少し前まで内戦があったことについての話をした。倒れた給水塔の写真も紹介した。	・スリランカで撮った写真（一部加工したもの）【資料2】
6 本時	「文字が読めるってすばらしい！」 ・文字が読めないことの不自由さについて考える。	香港の中国語、スリランカのシンハラ語、タミル語を紹介し、 「文字が読めないときの気持ち」 「文字が読めないときにはどうするか」 「文字が読めないと困ること」 「文字が読めないときの工夫」 について考えた。	・スリランカで撮った写真をまとめたプレゼンテーション資料【資料4】 ・ワークシート【資料3】
7	「これまでの学習をふりかえる」	スリランカを特集したテレビ番組を見たあと、これまでの学習内容をふりかえた。	【資料5】

【5】 本時の展開

学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
①題材の予告と本時のねらいを聞く。中国語で書かれたことばの意味を考える。	・文字が読めないことを体験してみる。	・香港で撮った写真 ・ワークシート
②文字の読めない状況を想像する。	・文字が読めないことにはどんな理由が考えられるか。 （外国にいる場面に限らず、いろいろな視点から考えられるようにする）	
③文字が読めないときにどんな行動をとるか考える。	・映像を見せることで想像を膨らませる。	・現地で撮った写真、動画
④シンハラ語で書かれた飲みものの中からひとつを選んで飲み、文字が読めないときの気持ちを体験する。	・アレルギーのある生徒もいるので配慮する。 ・口にするまでの緊張感を大切にする。 ・迷う気持ちや不安な気持ちを体験し、どんな気持ちだったかを共有する。	・3種類の透明な飲みもの ・シンハラ語で「水」「薬」「毒」と書かれたコップ
⑤課題について考える。 「文字が読めないと生活上でどんなことが困るか考えてみよう」	・個人で考えたあと班で話し合う。 ・話し合いの時間を十分にとる。	・ホワイトボード
⑥話し合いの結果を報告する。	・各班の意見をホワイトボードに書いて貼りクラスで共有する。	
⑦感想や気づきをワークシートに記入し、本時の学習を振り返る。		

【授業実践の様子】



中国語で書かれた言葉の意味を考えているところ



シンハラ語で書かれた3つの飲みものの中から選んで飲んでいるところ



文字が読めないと困ることを班で話し合っているところ



班で話し合った意見

<参考：2時「日本文化について考える1」漢字紹介カード>



生徒が作った作品

【6】本時の振返り

<生徒の感想>

- ・私は最初、「文字が読めるって素晴らしい!」と書いてあって、「そうか?」と思った。でも、「外国に行ったときは?」とか、「急に目が見えなくなったりしたら?」みたいなことを聞いて、そうだと思った。
- ・僕は、アレルギーをもっているので、文字が読めないと食材が買えないので困るし、書いてあることが分からないときは悔しいので、文字が読めないといういろいろな困ることが分かった。
- ・文字が読めることはあたり前だと思っていたけれど、世界や日本の中にも文字が読めない、書けない人がいるのかということを知った。
- ・文字が読めないと、生活上でどんなことが困るか、またそのことでどんな気持ちになるか考えることができた。
- ・読み書きができることは大切なんだなと思った。私は、日本語は分かるけど、外国に行ったら何も分からなくて困ると思う。これからはいろいろな国の言葉を勉強して、外国に行ったときに困らないようにしたい。
- ・絵や英語など分かりやすくするのいいと思った。

<教師の感想>

「文字が読めるって素晴らしい!」というタイトルを聞いて、最初は「当たり前のことなのに」と思った生徒たちが、文字が読めないときの不自由さや不安な気持ちを体験し、文字が読めることのありがたさに気がつくこ

とができた。生徒の気づきには、「（文字がよめないと）悔しい」という意見があった。文字が読めなくて悔しい思いをしている人や不自由な生活をしている人があることを知ることができた。今回はできなかったが、自分には何ができるかまで考えることができたらよかったと思った。

【7】単元を通した児童生徒の反応／変化（生徒の感想より）

＜授業前＞

- ・（スリランカという国を）知らなかった。
- ・外国への興味がなかった。
- ・英語は勉強しても使う機会がないと思っていた。
- ・文字が読めることが当たり前だと思っていた。
- ・「英語（を勉強すること）なんてめんどくさい」と思っていた。

＜授業後＞

○外国のこと

外国のことを調べてみたい。外国に行ってみたい。他の国と日本との関わりについて知りたい。自分の国だけでなく世界の国について知りたい。外国の人と交流したい。小さい国についても知りたい。ほかの国のことがニュースに出たり、スリランカのことが出たりしたら、詳しく調べてみたい。みんなが知らない国について、その国の良いところや名物を探してみたい。知らない外国に興味を持って、その国でどんなことがあったのかを知りたい。いろいろな国のことを知ることは楽しいし、大切だということがわかった。

○日本のこと

自分の国のことも知って、他の国の人に聞かれたら詳しく説明をして、自分の国をいい国と思ってもらえるようにしたい。スリランカのことを学ぶうちに、スリランカの良さだけでなく、日本の良さが見えてきた。日本との違いやスリランカの文化を知ることができて楽しかった。

○スリランカと日本のこと

スリランカと日本がすごく関わっていることが分かった。今の日本があるのは、スリランカのおかげだということがあった。ジャヤワルダナ大統領が日本のために尽くしてくれたことを忘れてはいけないと思う。

○平和について

日本も内戦がないといいと思った。どうして内戦が起こったのか知りたい。ひとつの意見に偏らず、いろいろな意見で普段の生活をよりよいものにできるとよい。スリランカも日本も、中国などの大きな国と対等に意見し合えるとよい。

○言葉

英語だけでなくほかの国の言葉も話せるようになりたい。世界全体で共通して、英語が話せたらいいのと思った。英語がわかることはとてもいいと思った。なぜならそこからまた新しい発見があるから。

○そのほか

「自分たちが当たり前に行っていることが当たり前じゃない」ということを意識して生活していきたい。朝食のときに紅茶を飲んでいただけ、生産している国のことも調べてみたいと思った。

【途上国・異文化への意識の変容について】

＜授業前＞

授業の前は、「スリランカってどこ？」というところから始まり、知っていることと言えば、「首都の名前が長い」ということくらいであった。外国については、「行きたくない」という生徒が驚くほど多く、理由として「言葉が通じない」「食べ物に困る」「知らない場所に行くのは怖い」とあげていた。

＜授業後＞

どの学習にも生徒は興味をもって取り組んでいた。最初は「知らない遠い国」だったのが、日本とのつながり

を知り、写真や映像を見たり活動をしたりすることを通して、身近なこととして考えられるようになった。スリランカから送った暑中見舞いや、みんなで楽しんだお土産のクッキーや紅茶は生徒の心に残ったようだ。また、廊下に掲示したたくさんの写真に興味をもった生徒が多く、友達同士で写真を見ては話をしている姿が見られた。

【8】自己評価

1. 苦労した点

伝えたいことが多く、その中からどれを生徒に伝えるか、内容を選ぶことにいちばん苦労した。また、それぞれの内容が旅行の「思い出」ではなく生徒の学習となるように気をつけた。授業時間の確保も課題であったが、朝の学年集会や参観日と関連づけることで十分な時間を確保することができた。

2. 改善点

英語科の学習と関連させて言語や日本の文化、外国の文化や日本とのつながりについて学習を展開してきたが、教科の学習内容にもっと組み込めるところがあったと感じている。例えば、日本文化を紹介する文を英語で書いたり、選んだ漢字について、選んだ理由を英語で説明したりすればよかったと思う。また、授業実践で取り上げた「文字が読めるってすばらしい！」の学習については、文字が読めない理由が、あいまいなままに終わってしまった。ただ単に「外国の言葉だから」ではなく、「識字」の問題として貧困と合わせて考えられるようにもっていきたかったと考えている。

3. 成果が出た点

「ずっと日本で生活していくのに、どうして英語を勉強しなければいけないんですか。」と言っていた生徒が、授業後の感想に「これからは英語を勉強したいと思います。」と書いてくれた。また、廊下に貼った写真をじっくりと見て、友達と話している姿をよく見かけた。「外国には行かない」と言っていた生徒たちも、興味をもち、授業に参加してくれていたようである。

外国と関わりをもつことなく生きていくことはできないことに気づき、英語を母語としない人たちとコミュニケーションをとるための手段として、英語を勉強する理由を見つけられたとしたらうれしく思う。

4. 備考・所感

この10日間のスリランカでの研修は、「自分のためになる研修」だったと思う。私自身、途上国について「知らない遠い国」のことだと思っていた。現地の人と一緒に話をしたり食事をしたりして、私たち日本人と変わらないところもたくさん発見することができた。「外国」というと、とても特別な気持ちができるけれど、そうではないことを実感した。この経験をこれからの学校生活を通して、少しずつ生徒に還元していき、生徒にとっての「行ってみたい場所」が増えていったらうれしく思う。

【参考資料】

<書籍>

- ・『チャレンジ総合的学習 1 中学校「国際理解」ファックス教材集』
澁澤文隆明・治図書出版株式会社（1998）

<映像>

- ・「未来世紀ジパング『インド洋の真珠 スリランカ争奪戦』」テレビ東京 2017年10月30日放送
- ・「世界の村で発見 こんなところに日本人」テレビ朝日 2017年7月4日放送

Class() name: _____

I am going to visit Sri Lanka.

1. Do you know the country Sri Lanka? - Yes, I do. No, I don't.

--

2. What would you like to know?

--

3. What should I bring? (OMIYAGE) Please tell me the reason, too.

--

Class() No.() name:

Let' s be familiar with Sri Lanka



10月31日（火）5時間目 人権参観日

1年（ ）組（ ）番 名前

「文字が読めるってすばらしい！」

Today's goal 文字が読めないと生活上でどんなことが困るかを考える。

1. 書いてあることが読めないときや理解できないとき、あなたならどうしますか。

.....

2. 書いてあることが読めないときや理解できないとき、どんな気持ちでしたか？

.....

3. 文字が読めないと生活上でどんなことが困るか、書いてみましょう。

自分の意見：

.....

班の意見：

.....

4. 今日の感想を書きましょう。

.....

.....

.....

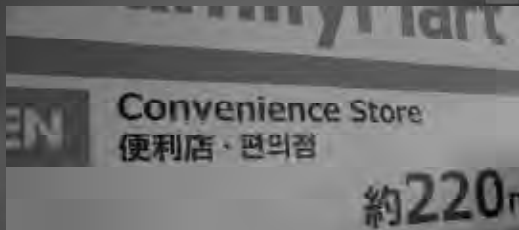
.....

【資料4】文字が読めるってすばらしい！

文字が読めるってすばらしい！

▶ Look at this picture! What is it

便利店・편의점



- ▶ Quiz
- ▶ 中国語で書かれた次のことばの意味は何でしょうか。
- ▶ 1. 火車
 - ▶ 2. 超級市場
 - ▶ 3. 手紙

▶ 1. 火車 →

▶ 2. 超級市場 →

▶ 3. 手紙 →

▶ Today's goal

- ▶ 文字が読めないと生活上でどんなことが困るか考える。

▶ 「文字が読めない」って、どんなとき？

- ▶
- ▶
- ▶



▶大変です！タイで旅行中、迷子になりました。日本へ帰る飛行機に乗るためにバス停に来ました。空港に行くバスは次のどれでしょう。



▶さあ、読めましたか？

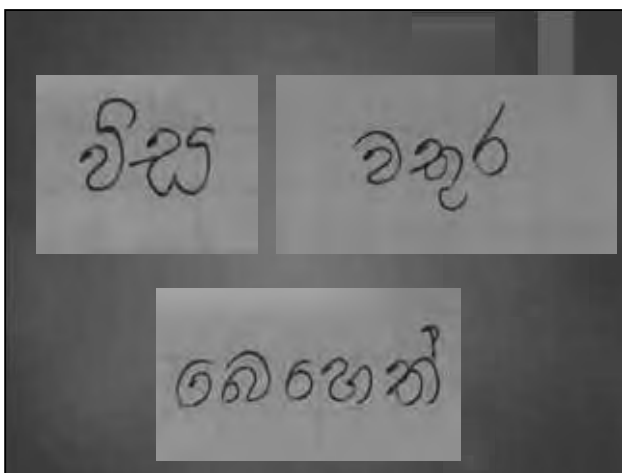
▶わからない場合、正しいバスに乗るためにあなたはどのようにしますか？





▶ やってみよう！

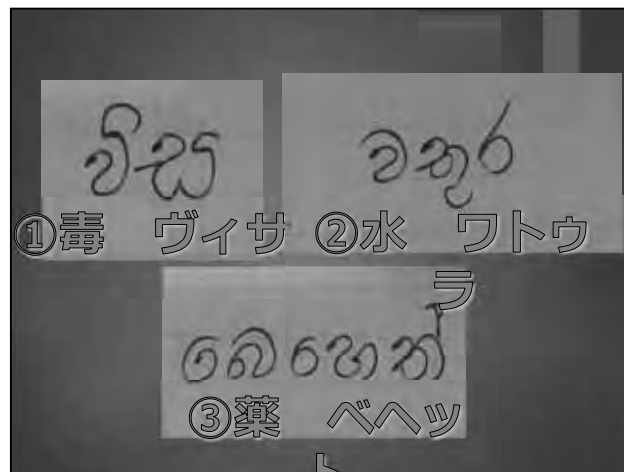
- ▶ 3つのコップがあります。
- ▶ それぞれ、「水」「薬」「毒」と書かれています。
- ▶ 「薬」だと思うものをひとつ選んで飲んでみましょう。



▶ どんな気持ちでしたか？

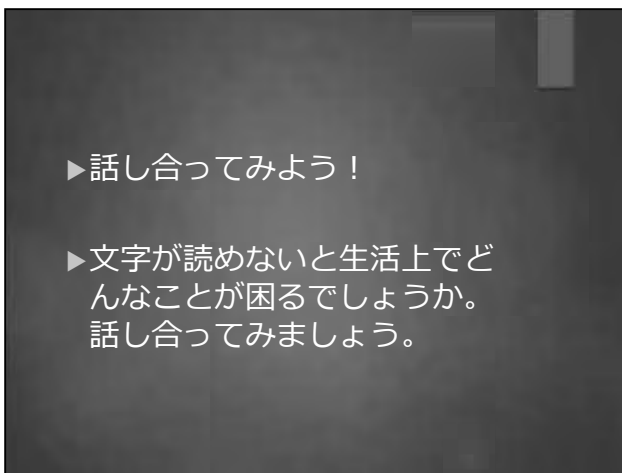


▶ 答え合わせ



①毒 ヴィサ ②水 ワトウ

③薬 ベヘツ



▶ 話し合ってみよう！

- ▶ 文字が読めないと生活上でどんなことが困るでしょうか。話し合ってみましょう。

伝える工夫～スリランカ編



伝える工夫
～スリランカ



あ、まちがえた・・・



あ、まちがえた・・・



感想 1

- ▶ 「読めて書ければ怖くない」
 - ▶ ～小学校の先生のお話
- ▶ 「私の名前はキムです」
 - ▶ ～識字学級 キムおばあさんのお話

感想 2

- ▶ 行ってよかった。
- ▶ 知らない外国→あ、スリランカだ！
- ▶ 「友達」は大切にしたい。
- ▶ 「友達の国」も大切にしたい。

7th grade English

Class() No. () name

○1年生の英語では、

①スリランカへのお土産を作ろう。(漢字を紹介するカードを作る。)

②スリランカへのお土産を考えよう、知りたいことは？

③クイズ・スリランカ in English

④「文字が読めるってすばらしい！！」

と、4回に渡って勉強してきました。(※④は、やっていないクラスもあります。) 学年朝の会でのお話も含めて、今日はそのまとめの時間です。これまでの学習を振り返って、「分かったこと・考えたこと」などを自分のことばで書いてみましょう。

これまで(英語の授業で①～④を学習する前)は、

今回の学習を通して、

これからは、

Thank you very much for your cooperation!

スリランカを知る・スリランカを通して考える

氏 名：井本 亜希
学 校 名：玉野市立日比中学校
担当教科：英語科

時 間 数：5時間
実践教科：英語、道徳
対象学年：第2学年
人 数：45人

【1】単元のテーマ・目標

スリランカの文化や言語、人々などについて知るだけでなく、スリランカを通して、自国と比較したり、自己の生き方について考えたり、何かに挑戦してみようという思いをもったり、その思いを行動にうつすことができる。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	スリランカの人々の暮らしや文化、言語に関心をもつ。
(イ) 思考・判断・表現	様々な人の生き方から自分の生き方について考える。
(ウ) 技能	他者の意見に耳を傾けながら、クラスやグループワークなどで自分の考えを述べることができる。
(エ) 知識・理解	スリランカと日本の同じところや違うところに気がつき、日本とのつながりを理解する。

【3】単元設定の理由

<生徒観>

昨年度から実施している国際理解教育もあり、生徒たちの多くは諸外国の文化等に興味を持っている。英語の授業で、諸外国の話をすると、熱心に話を聞き、「いつか外国に行ってみたい」と述べる生徒がいる一方で「外国と自分は全く関係がない」と述べる生徒もいる。スリランカに関する授業を実施する前に、スリランカに関する国際理解アンケートを実施した。スリランカという国名を知っている生徒は44人中28人であった。また、スリランカの場所を正確に答えた生徒は9人、正しい国旗を選んだ生徒は28人だった。これらの結果からも、スリランカに関する知識は低いことが分かる。

<教材観>

遠く離れた異国の地、日本とはつながりのない国と思われがちなスリランカを身近に感じることができるよう、スリランカで撮影した写真や動画を、なるべく日本と比較したりしながら提示するようにした。また、キャリア教育とも関連づけて、現地で活動する日本人を紹介することで、様々な生き方にも触れることができるようにした。

<指導観>

外国に限らず、日本国内、自分の住む地域、身の回りで何か問題に直面した時、「何が問題なのだろう」「何ができるのだろう」と考える時間を大切にしたいと思いこの単元を設定した。「自分とは関係ない」と無関心なままではではなく、「もし自分のことだったら…」「身近にそんなことがあったら…」と立ち止まって考えてほしいと思う。そして、スリランカで活動する多くの日本人がたくさんの方と協力をしながら活動を進めていたように、1人で考え込むのではなく、自分の思いを人に話すことを大切にしたい。そして、もし、自

分が誰かの役に立つことができるのなら、そっと手を差し伸べることのできる人になってほしいと願っている。
また、授業を通して「持続可能な支援」とは何かを考えるきっかけになればと思っている。

【4】展開計画（全5時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「スリランカってどんな国？」 ・スリランカに関する情報を事前にどれだけ知っているかを把握する。	・アンケートを行い、位置、時差、首都、国旗、名産品、食事、言語、宗教、生活などの基本情報について質問する。	国際理解アンケート [資料1-①]
2	「海外にはどうやって行くの？」 ・海外に行くための方法を知る。	・空港での案内板とチケットを見て、行き先、出発時刻、搭乗時刻、座席などを読み取る。 ・空港でのアナウンスを聞いて、ゲート番号を聞き取る。 ・機内でのアナウンスを聞いて、飛行時間、現地到着予定時刻、現地の天気と気温などを聞き取る。 ・機内でのスクリーンを見ながら、香港の時刻とスリランカの時刻を比較し、時差を出す。 ・アライバルカードを記入する。 ・現地の案内板を見ながら、街に出るまでの順番を考える。	・航空券 ・空港アナウンス ・空港内の案内板写真 ・機内の写真 ・アライバルカード ・ふりかえりシート [資料1-②] ・海外への行き方ワークシート [資料2]
3	「スリランカってどんな国？」 ・スリランカの人々の生活の様子について理解するとともに、異文化に興味・関心をもち、知識を深める。	・パワーポイントで写真や動画を提示しながら、クイズ形式でスリランカについての問題をグループ（4人組）で協力して解く。 ・グループにすることで、互いに自分の意見を言い合える場面をつくる。 ・クイズについては、項目毎に分け、グループ対抗戦で行う。 【CULTURE】国旗 [資料3-②]、首都、世界遺産、ココナッツの用途 [資料3-③]、トイレ 【FOOD】食べ物 [資料3-④]、飲み物、食べ方 [資料3-⑤]、名産品 【LANGUAGE】公用語 [資料3-⑥]、あいさつ、文字、言葉の意味 [資料3-⑦] 【LIFE】宗教 [資料3-⑧]、参拝方法、内戦 [資料3-⑨] 【PEOPLE】制服、生き方、マーケット [資料3-⑩]、サマンさんのインタビュー、ジャヤワルダナ氏 [資料3-⑪]	・クイズ用写真と動画 [資料3] ・ジンジャークッキー ・紅茶 ・サリー ・はがきやコイン、マグネットなどの景品 ・「未来世紀ジパング」の動画（ジャヤワルダナ氏紹介部分） ・ふりかえりシート [資料1-②]

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
4	「4人の女性の生き方から考える～本当の支援とは？～」 ・4人の女性の生き方を通して、自分自身の生き方について考えることができる。	・JOCV（環境教育）やNGOの現地での活動の様子を紹介文を読み、誰がどんな活動をしているか、文面合わせをする。〔写真⑤〕 ・4人の女性の活動の様子から、支援の方法について、共通する考え方などを考える。〔写真⑥〕	・4人の女性の活動カード〔資料4－①～④〕 ・リサイクルサリーのかばん ・ふりかえりシート〔資料1－②〕
5	「花売りの少年から考える～本当の支援とは？～」 ・途上国にとって有効な支援とは何かを考えることができる。	・「花売りの少年」の写真と動画を見て、自分なら花を買うか、買わないかを考える。 ・途上国の子ども様子から、「子どもにとって有効な支援とは何か」を個人で考え、ランキングをつける。 ・個人での考えをもとに、グループで考えと理由を共有する。	・「花売りの少年」の写真と現地撮影動画〔資料5〕 ・ダイヤモンドランキングシート〔資料6〕 ・ふりかえりシート〔資料1－②〕
	「色々な国の人と英語を使って交流しよう」（希望者のみ） ・同世代の青年との交流を通じて、外国語や異文化に触れ、理解を深める。	スリランカ、ブータン、セントルシア、ペルーの同世代の青年とビデオレターを通して、自分自身や日本のことを英語で伝える。また、各国から送られてくるビデオレターを鑑賞する。	・各国から送られてくる動画

【5】 本時の展開

学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
・スリランカの基本情報をふりかえる。 ・4人の女性の共通事項をふりかえる。 (1) 現地で出会った青年の状況のパワーポイントを見ながら聞く。 ・花を買うか買わないか、その理由を考える。（個人→グループ）〔資料5－②〕 ・何人が意見を発表する。 ・先生達はどうしたかを聞く。 (2) 「子どもたちが学校に通えるようになるために有効な支援」について考える。〔資料6－①〕	本時の授業までの内容を簡潔にふりかえる（ゴミ問題、教育格差、内戦、教育費医療費無料、地域格差） ・情熱 ・現地の人の自立を願っていた ・少年と出会った場所やどんな少年かをイメージしやすいように、パワーポイントで写真と動画を見せる。〔資料5－①〕 ・生徒自身の意見を引き出すために、先生達がつとめた行動は生徒の意見を聞いてから紹介する。〔資料5－③〕	・パワーポイント ・花売り少年現地撮影動画1 ・花売り少年現地撮影動画2 ・花購入現地撮影動画3

・スリランカの教育について知る。 ・ダイヤモンドランキングで個人の意見と理由を考え、ワークシートに記入する。（個人）	・スリランカの教育についてまとめたスライドを見せる。 ・1人1枚ずつ、9つの支援方法が書かれたワークシートを配付し、ランキング付けする。 ・どのような子どもたちのことを考えるのか、イメージしやすいように架空の状況を設定する。	・ダイヤモンドランキングワークシート（個人用）〔資料6-②〕
・グループで最も重要な支援を1つ、2番目に重要な支援を2つ、3番目を3つ、4番目を2つ、最も重要ではない意見を1つ選んで、ダイヤモンド型に並べ、理由を話し合う。（グループ）	・意見交換ができるように個人で作業した後、グループ（4人組）を編成し、グループで互いの意見を述べ合う時間を確保する。 ・事前に有効だと思う支援を書き出しておき、カードを操作しながら考えることで、グループで理由を考える時間を十分にとる。	・ダイヤモンドランキングワークシート（グループ用） ・支援方法カード（グループ用）〔資料6-③〕
(3) グループ代表者が発表する。 ・ランキングの1位と最下位について、どんな話し合いの過程で決まったか説明する。	・各グループが最上位と最下位に何を選んだかをメモし、意見の異なるグループを意図的に指名し、意見を発表させる。	
・スリランカ授業について教師のまとめを聞く。 ・まとめとして、スリランカについての授業を受けて考えたことや感じたこと、本当の支援について考えたことや感じたことを書く。	・まとめのワークシートは4時間継続して同じものを使用することで、意識の変容を見る。	ふりかえりシート〔資料1-②〕

【授業実践の様子】

※ダイヤモンドランキングの結果は以下の通りである。（項目内容については〔資料6-③参照〕）

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	計
最上位	1	15	13	5	2	1	2	4	0	1	44
2 位	6	19	21	4	21	11	2	4	0	0	88
3 位	11	7	7	11	19	26	23	26	2	0	132
4 位	24	1	3	23	2	6	16	10	2	1	88
最下位	2	0	0	1	0	0	1	0	40	0	44
合 計	44	42	44	44	44	44	44	44	44	2	396

※以下は、生徒が個人でランキング上位と下位に選んだ理由の一部抜粋である。()内は2位に選択した項目である。

○A最上位理由

- ・まずはその国だけで解決できるのかを確かめる必要があると思うから。(DE)

○B最上位理由

- ・お金や物資を送れば、何かの役に立つから。(CE)
- ・自分たちが使わなくなったものや、ちょっとしたお金を寄付すれば、学校に行くための物がそろえると思うから。(CG)
- ・外国だけど、お金や物資なら中学生の私たちでも簡単に寄付することができると思うから。(CE)

○C最上位理由

- ・教育支援金だから、確実に通えるように協力できる。(BE)
- ・少しでも教育支援金を送ることで、子どもたちが学校に通える可能性があるから。(BE)
- ・自分から支援金を送ることで、お互いのことや国について関心が広まったり、知ることができたりするし、周りにも広めることができいいと思うから。(BF)
- ・教育支援金を送れば、学校に通えない子どもも学校に通えるようになるかなと思ったから。(BE)
- ・直接支援ができるから。継続的に行える活動だから、無理なく少しずつ行える。(BE)
- ・その人が1番必要だと思う方法を自分で選んで使うことができると思う。(BE)

○D最上位理由

- ・その国の現状を知らないと、今何をすべきなのかわからないから。(BC)
- ・現地のことを何も知らないと何もできない。(BE)
- ・どんなことで困っているのかなどを知っておかないといけないから。(BC)
- ・まずは、現地のことを調べないと何もできないから。(BE)

○E最上位理由

- ・支援は寄付だけでなく、後方や自分自身が現地に行って活動する人の手伝いをすることも含まれるし、井本先生みたいに、いろんな人に伝えることも入ると思うから。現地で活動する人に支援した方が一時的なものじゃなくていいと思う。(BG)(本生徒は、今年、「認定特定非営利活動法人 AMDA」でスリランカを訪問している)
- ・お金や政治よりもその場で支援するほうがいいと思う。

○G最上位理由

- ・まず、多くの人が現地のことを知るの大切だと思ったから。知ることで援助しようという気持ちになる。(CF)
- ・まずいろんな人にどんなことが起きているか知ってもらうのが1番だと思うから。(FI)

○H最上位理由

- ・お互いがいいようになる。(CF)
- ・こちらがこちらに何かをしてあげるだけでは、日本がつぶれるので、物を買って、こちらにも何か利益を出せば、どちらもウィンウィン。(AF)
- ・儲かるようになれば、家もお金の面では安定すると思うので、子どもにもお金をまわせるようになり、学校に行けるようになるから。(BC)
- ・お金をあげるだけだと働かなくなる大人もいるかもしれないから、何かを買うことで、その人も働くことができる。(EF)

○J最上位理由

- ・ 自分で行く。自分で活動する。団体を立ち上げる。自分の目で現状を見て、自分の手で変えられるから、一番確実。

○I最下位理由

- ・ 何もしなかったら、解決できるものもできなくなり、問題解決にはつながらないから。
- ・ 何もしなかったら、現状は変わらない。
- ・ 何もしていないから、今の現状があるのだから、何もしないのはよくない。
- ・ 何かはしないとイケない。

○D最下位理由

- ・ 現地を知るだけなら、何の意味もないから。

○A最下位理由

- ・ 政治家が何かするわけがない。
- ・ 政治家に言っただけで動くわけではないし、お金がまた必要になる。
- ・ 働きかけたとしても、動いてくれなければ意味がないから。

○G最下位理由

- ・ 現地の人の状況を伝えても、何もできないから。（最上位にHを選択）

○B最下位理由

- ・ お金で解決しようという考えやお金以外何もしないという考えがダメだと思う。（1位にG）

〔写真①～④〕 本時の授業の様子



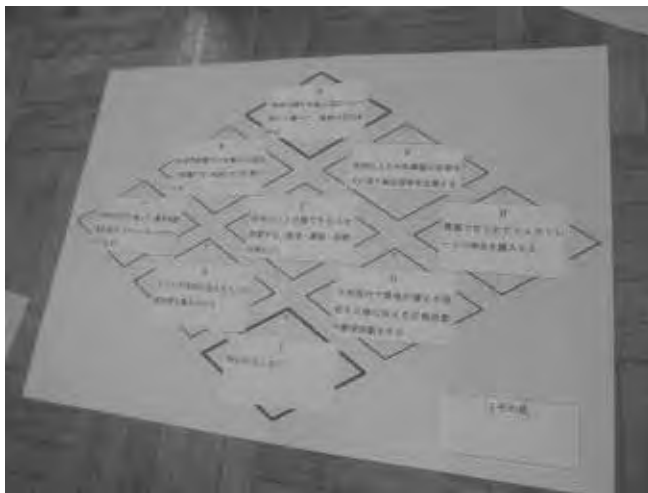
〔写真①〕 授業の様子



〔写真②〕 個人の意見をもとにグループでランキングを考える



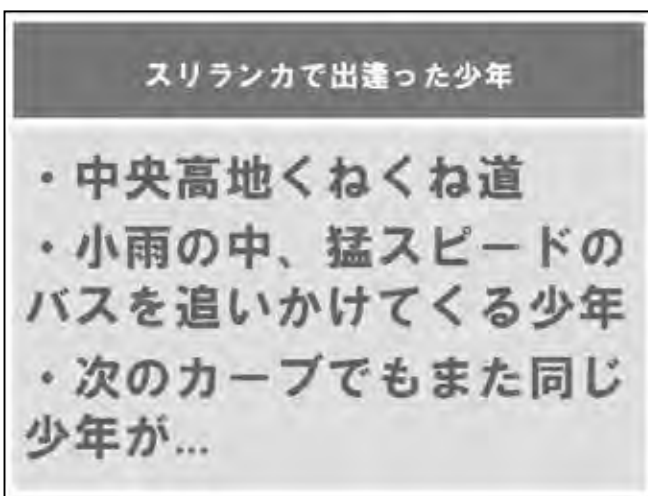
〔写真③〕 グループで自分の意見を伝え合う



〔写真④〕 あるグループのランキング結果



〔資料5ー①〕 花売り少年の動画



〔資料5ー①〕 花売り少年状況説明スライド

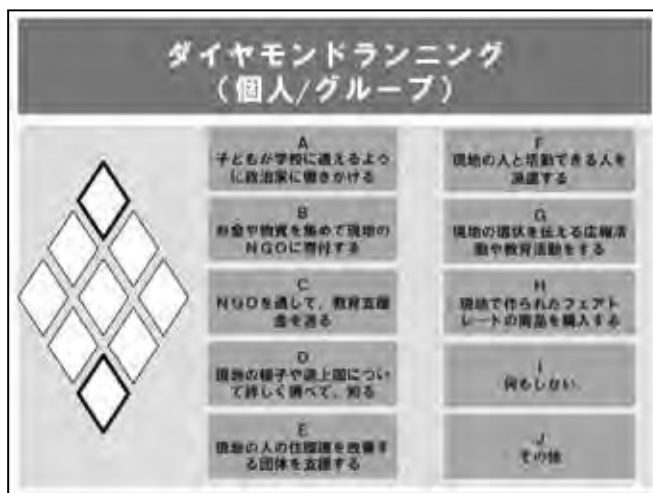


〔資料5ー②〕 花をスライドと動画



〔資料5ー③〕 花を購入するまでの教員の胸の内スライド

〔資料6〕 ダイヤモンドランキングのスライドとワークシート（第5時で使用）



〔資料6ー①〕 ダイヤモンドランキング説明スライド

スリランカを通して知る・考える（その2）

日比中学校 2年（ ）組 名前（ ）

「子どもが学校に通えるようになるために」、どんな支援がより有効だとあなたは思うか、◇の中にA-Jを記入して、順番を並び替えてみよう。

最上位【理由】

最下位【理由】

A 子どもが学校に通えるように政治家に働きかける
B お金や物資などを集めて現地で活動する NGO などに寄付する
C NGO などを通して、教育支援金を送る（フォスタープランなど）
D 現地の様子について詳しく調べて、現地の状況を知る
E 現地の人の住環境の改善などに取り組む団体を支援する
F 現地の人と活動できる人を派遣する（教育・農業・医療分野など）
G 現地の様子や現状を正確に伝える広報活動をする
H 農園で作られたフェアトレードの商品を購入する
I 特に何もしない
J その他

※フェアトレード＝発展途上で作られた作物や製品を適正な価格で積極的に取引することによって、生産者の持続的な生活向上を支える仕組み

〔資料6ー②〕 ワークシート（個人用）

A 子どもが学校に通えるように政治家に働きかける	B お金や物資などを集めて現地で活動する NGO などに寄付する
C NGO などを通して、教育支援金を送る（フォスタープランなど）	D 現地の様子や途上国について詳しく調べて、現地の状況を知る
E 現地の人の住環境の改善などに取り組む団体を支援する	F 現地の人と活動できる人を派遣する（教育・農業・医療分野など）
G 日本国内で現地の様子や現状を正確に伝える広報活動や教育活動をする	H その土地で作られたフェアトレードの商品を購入する
I 特に何もしない	J その他（各自で考える）

〔資料6ー③〕 ランキングカード（グループ用）

【6】 本時の振り返り

本時は、スリランカについて学び始めて4時間目の授業であった。どの授業でもそうだが、伝えたいことや一緒に考えたいことが多く、50分の時間の中におさめきれず、話し合いの時間を短くしてしまったことが残念であった。今後は、話したい内容を厳選して授業を組み立てていきたい。短い時間ながらも、生徒たちが、ランキングを通して、遠く離れた子どもたちに思いを馳せ、彼らにとってどんな支援が有効なのかを真剣に考えていた様子がとても印象的だった。4時間の授業を通して、少しでも世界に目を向けるきっかけがくれたのではないかと思う。反省点としては、ここで知り得た内容を自分の生活と結びつけ、実際に行動するまでに至っていない点である。今後は、学んだ知識を生活と結びつけられるような工夫をし、他教科とも連携をとりながら国際理解教育に取り組んでいきたい。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

※生徒のワークシートより抜粋

【第2時】（海外にはどうやって行くの？）

- ・外国の空港がどのようなものかよく分かった。英語は世界に知れ渡っていて、いろんな場所に書いてあるけど、日本語がなかったので、英語の大切さが分かった。
- ・実際のチケットや案内板を見て答えるのは難しかった。でも、実際の英語を見たり、聞いたりするのはとても楽しかった。
- ・辞書がないと読み取るのは難しかった。違う国に行くには、単語や表現を知っておくのが大切だと思った。覚えておきたい。興味が湧いた。
- ・日本で旅行をする時も、親に頼りっぱなしなので、それが英語で書いてあるので、さらに読めなくて難しかった。少しチケットの見方が分かった。1回外国に行って、空港で体験してみたいと思った。
- ・もっと聞き取れるようになったら、外国に行きたいと思った14歳でした。

【第3時】（スリランカってどんな国？）

- ・日本とは違い、食べ方、文化、言語、生活などあらゆるものが日本と違いおもしろかった。スリランカについてもっと知りたいと思ったし、スリランカと日本の共通点についても知りたいと思った。
- ・いろんなところにココナッツが使われていたから、他にも使われているのかが気になった。制服が白+白なのは、宗教の中でもどんな意味があるのかを知りたい。
- ・スリランカの文化を詳しく知れた。スリランカの宗教は、日本と同じ仏教であることを知れた。同じ仏教でも、お祈りの仕方が違う事が分かった。
- ・日本と全くつながりがないと思っていたのに、つながりがあってびっくりした。
- ・クイズでスリランカの知識を増やすことができた。違う国の知識や他のことももっと知りたいと思った。
- ・クイズでスリランカのことを詳しく知れた。知らない事がたくさんあって、興味をもった。もっと知りたいと思った。
- ・スリランカの知らないことをたくさん知れた。文化や言語など全く知らなかったから、知れてよかった。日本と同じところもあれば、違うところもあって、行ってみたいと思った。スリランカの人と接してみたいな。

【第4時】（4人の女性の生き方から考える）

- ・4人の女性には共通点があり、誰かのために何かをしようという考えを持っています。全然違う国でも、困っている人のために、自分ができていることというのは、とてもすごいと思いました。人のために何かをすることは、人を救うことと同じだと思うので、本当にすごいと思います。自分がよかれと思ってしたこと、その人は嫌だったりすることもあるので、その人としっかり話し合いをすることが大切だと改めて思いました。
- ・現地の日本人の人たちは、スリランカに住む人々の生活を豊かにするために多くの人に教えていてすごいと

思った。特に、自分の力で積極的に取り組んでいて、不安なこともあると思うけど、一生懸命がんばっている姿を見て、自分も見習いたいと思った。

- ・ 4人の女性の活動を見て、人のためにたくさん話し合っているのがすごいと思ったし、自分も人のために、いろいろ教えたり、動いたりしたいと思った。
- ・ 現地で働いている人たちは、スリランカが少しでもすてきな国になるように現地の人と一緒に活動をしたり、たくさんの工夫をしたりして働いていることを知りました。自分の意志で、会社を立ち上げたりして、スリランカを助けようとしている視線がすごいなと思いました。
- ・ 自分が興味を持った国に行って、知らない言語を使って、自分の思っていることを伝えていてすごいと思った。この人たちがこのように活動できるのは、現地の人「～していきたい」「～してほしい」ということを教えてくれるからだと思った。自分が実際に行くことは難しいけれど、この知識を広めたい。
- ・ 現地の平和や世界の平和。人のために何かをするということ。4人の女性とも、現地のことをとても大切に思っているんだと感じた。自分から行動することはすごいと思う。私も、自分の得意なことや学んだことを誰かのために役立てることができたらいいなと思った。
- ・ スリランカで働いている4人の方は、現地の人役に立ちたい、お願いされたことを実行したいという思いが強いなと思った。人のために働く事はやっぱりカッコいいなと思った。今当たり前前にできていることに感謝していきたい。
- ・ 4人の女性の生き方を知って、「あっ！そんな生き方もあるんだっ！」って思いました。そして、私の夢も1つ増えました。私も今、しっかり英語を学んで、AMDで知識や考えを増やし、自分で実際に経験して、将来人のために活動できるよう、どんどん力をつけていきたいです。今、自分の目の前にあるチャンスを逃さず、今を大切にしたいと思いました。

【第5時】（花売りの少年から考える）

- ・ ダイヤの形でランキングをつけるのは、初めてでした。みんなそれぞれ、最上位や最下位、その間の順位が違って、考えることがやっぱり違うんだなと思いました。その中で、みんなが「子どもが学校に通えるようになるために」と思って考えたことが、少しずつ実際に行動できたらいいなと思います。
- ・ 「子どもが学校に通えるようになるために」はどんな支援が有効なのか、個人やグループでしっかり考えることができた。私はまず、現地の状況を知ることが有効だと考えた。現地のことを知り、そこから教育支援金を送ったり、現地で活動するNGOなどと協力したりしたらいいと思う。
- ・ スリランカには、自分と全く違う生き方をしている人がいるんだなと思いました。少年は、バスを必死に追いかけて、そこまでして花を売りにきていて、そこまでするのすごかったです。日本とスリランカでは、共通点があれば、大きく違う点もあります。お互いにいろいろなことを理解して、助け合っていければいいなと思います。スリランカは日本を助けてくれたので、日本もスリランカを支えてあげないといけないなと思いました。

【途上国・異文化への意識の変容について】

※生徒のワークシートより抜粋

- ・ スリランカや他の国の貧しい子どもたちを救うには、たくさん方法があって、いくつかのものは自分であることができるから、少しずつでもやっていきたい。今、学校に来ることができて、みんなと話せているのは、いろいろな人ががんばっているおかげなんだなと思った。そして、今、学校に来ないとスリランカのことは知らなかったし、支援の方法も知らなかったから、よかった。これからも様々なことに感謝し、挑戦していきたい。
- ・ 学校に通えるようにするためには、たくさんの対策や解決策があると思いますが、私はまず、自分から動くと思いました。募金をするにしても、何かを寄付するにしても、自分であることに意味があると思います。私は、あまりこういうことは考えたことがありませんでしたが、私たちが当たり前だと思ってやっていることは、全然当たり前なんかではなく、すごいことだと知りました。まずは、ボランティアから始めてみたいです。

- ・今回、まったく知らなかったスリランカのことをたくさん知れて良かったと思いました。食事や文化など、日本とは違うところや同じところがあっておもしろかったです。そして、その中で、スリランカの人々のために動いている人を見習って、自分にできることを少しずつやっていきたいと思いました。
- ・スリランカの暮らしと日本の暮らしは全然違うし、とても離れているけど、助け合っていけることがとても良いと思った。困っている人がいたとしても、すぐに行動するのではなく、そのことについて詳しく知っておかないといけないと思った。また、自分1人で行動するのではなく、大勢の人と行動する方が効率いいし、互いに支え合えるから良いと思った。
- ・今日でスリランカについて4時間目で、だんだんスリランカの良いところや今抱えている現状が分かりました。初め、スリランカは日本と同じくらいのお金や技術があるのかと思っていた。
- ・今日が最後のスリランカについての授業でした。この4時間で行ったことのないスリランカについて、どういう生活をしているのか、どんなところなのか、どういうものを食べているのかがよく分かりました。日本では当たり前のことが、他の国では当たり前ではないことを改めて知った。
- ・この4時間で学んだことは、スリランカや世界の色々な国の現状について知るいい機会だった。

【8】 自己評価

1. 苦労した点

【単元全体】

- ・授業実践をする時間を確保するのが難しかったが、研修前に学年団の先生に数時間授業実践したい旨を伝えておくことで、道徳の時間を2時間使うことができた。残りの2時間は自分の担当教科である英語の授業の中で実践した。国際理解に関する時間の確保は難しいが、他教科と連携をとりながら継続的に実践していきたい。
- ・スリランカについての知識を注入するだけでなく、実際に私が行って感じたことや考えたことを共有しながら、その考えたことを一緒に考える授業にしたかった。また、実際に体験したことがないことをリアルに感じてもらうためには、どのような動画や写真を提示し、どのような構成や流れで実施し、発問をすればよいかを悩んだ。

2. 改善点

【第5時】

- ・事前に準備した「9つの支援方法」については、もっとしっかり練る必要があった。もし、時間が十分にとれるのであれば、生徒たちに支援内容を考えさせてもおもしろいだろう。
- ・なぜその支援を選んだのかを理由については、最上位と最下位しか書かせなかったのも、他の順位のもの理由も聞いてみたかった。
- ・「今自分ができること」として選ぶのか、「一般的にできること」を選ぶのか、あいまいなまま進めていたので、結果として、自分のことなのか、一般論なのかがつかみにくいので、どちらかをはっきりさせてから問うべきだった。
- ・また、最後にその支援がよいものかとして、「自分は今何をしているのか」「これから何をしようとしているのか」などの具体的行動に移せるようにしていきたい。

【単元全体】

- ・学校現場で国際理解教育の実践の時間の確保はかなり難しいなと感じた。しかし、他国について知ったり、自国と比較したり、地球規模の諸問題を知り、考える時間はこれからの生活でとても重要だと思うので、国際理解教育を他教科と繋げながら実践していきたい。
- ・他国と日本を比べた時に、「あの国はかわいそうだ」「日本に生まれて幸せだ」という感想にとどまらないように、発問を工夫する必要がある。
- ・研修で得た体験や知識を生徒と共有し、生徒が、教科書にはのっていないことを学ぶ事で「遠い国の世界」をより身近に感じられるようになってほしい。そのためには、「日本と世界（スリランカ）」のつながりを

しっかり意識する必要があると思うし、それを知り、学ぶことで、自分の地域社会で、その学びをどのように生かすことができるかを考え、実行させることができるような授業構成を考える必要がある。私が10日間で見たり経験したりした、ごく一部のスリランカの情報で子どもたちのスリランカに対するイメージが作られると思うので、言葉や内容はしっかり吟味して、授業を構成していきたい。

3. 成果が出た点

【第2時】

- ・空港や街中で実際に使われている英語を見せたり、聞かせたりすることで、「英語はいろんな場所で使われている」と感じた生徒が多く、その中で「もっと英語を勉強しよう」と感想を述べた子が多くいた点は、英語科教員として大変嬉しい成果である。英語は受験科目の一つではなく、コミュニケーションツールのひとつであると感じとらせることができたのではないかと考える。

【第4時】

- ・4人の女性の生き方を紹介することで、生徒の感想から「こんな生き方もあるんだ」と感じ取ってくれた生徒が1人でもいたことは私にとって大きな成果である。

【第5時】

- ・ダイヤモンドランキングにすることで、他者の意見の違いを顕著に見ることができた。互いの意見が違っていても、「そういう考え方もあるんだなと思った」と、違いを受け入れる反応をする生徒が多かった。

4. 備考・所感

毎日のカレー、手で食べる食事、宗教と共存して生きる社会など、日本に住む私たちにとって、日本の外に一歩出ると、常識が覆される。今の生活の当たり前は、他の場所では当たり前でないことを実感する。子どもたちにも、自分の価値観や視野を広げ、異文化に触れること、異文化と交流することの楽しさを知ってもらいたい。また、自分や自分の周囲の人と文化を大切にする心を育て、やがて地域、そして世界について考え、大切に思えるような人になってほしい。これからも、様々な活動を通して「Think Globally、Act Locally」な子どもたちを多く育てて生きたい。

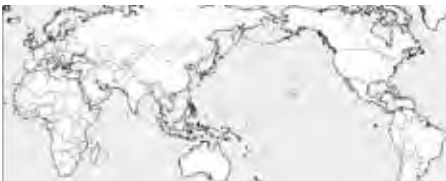
〔資料１〕 国際理解アンケート（第１時で使用）とふりかえりシート（全４時間で使用）

国際理解アンケート

() 年 () 月 () 日 組 名前 ()

①スリランカを知っているか？ はい ・ いいえ

②スリランカの場所は地図上のどのあたりか？正確な位置が分かる場合はそこに○をつける。



③スリランカと日本の時差は？
時差なし ・ 日本より３時間３０分進んでいる ・ 日本より３時間３０分遅れている

④スリランカの首都の名前は？ ()

⑤スリランカの国旗はどれか。○をつけよ。



⑥スリランカの名産は何か？ ()

⑦スリランカ人の主食は？ ()

⑧スリランカ人は食事をする時に何を使って食べるか。○をつけよ。
はし ・ フォークとナイフ ・ スプーン ・ 手

⑨スリランカは独立する前はどこの国の領土だったか？ ()

⑩スリランカと日本は歴史上深い関わりのある国である。○をつけよ。 はい ・ いいえ

⑪挨拶をする時、どのようにあいさつするか？○をつけよ。
おじぎをする ・ 両手を胸の前で合わせる ・ 握手をする ・ その他 ()

⑫スリランカのあいさつで「こんにちは」を意味するのはどれか？○をつけよ。
アーユーボーワン ・ アーユルグエダ ・ ボヤデー

⑬スリランカ人の７割以上が信じている宗教はどれか。○をつけよ。
仏教 ・ イスラム教 ・ ヒンドー教 ・ キリスト教

⑭スリランカには野生の動物がたくさんいるが、どんな動物がいるか。
()

⑮スリランカの学生の制服の色は？○をつけよ。 白+黒 ・ 白+白 ・ 黒+黒

〔資料１－①〕 国際理解アンケート

スリランカを通して知る・考える

日比中学校 (2) 年 () 月 () 日 組 名前 ()

(9) 月 () 日 () 英語 (空港のアナウンスやチケット)

ふりかえり 興味をもったこと、初めて知ったこと、もっと知りたいこと、考えたことなどを書きましょう。

(9) 月 () 日 () 英語 (スリランカ土産)

ふりかえり 興味をもったこと、初めて知ったこと、もっと知りたいこと、考えたことなどを書きましょう。

(9) 月 () 日 () 道徳

ふりかえり 学んだこと、考えたこと、感じたこと、これからどうしていきたいかなどを書きましょう。

〔資料１－②〕 ふりかえりシート

〔資料２〕 海外への行き方ワークシート（第２時で使用）

実際に使用した航空券やアライバルカードを使用して、案内掲示板と見比べながら搭乗ゲートや搭乗時刻などを読み取らせた。機内のテレビ画面に表示される香港とスリランカの時刻から、時差を読み取る作業もした。生徒たちは辞書を使いながら、グループで協力しながら読み取りをしていた。



〔資料２－①〕 空港内のチケットや案内板



〔資料２－②〕 機内の案内板や食事

〔資料3〕 スリランカクイズのスライド一部（第3時で使用）

スリランカについての情報を「CULTURE（文化）」「FOOD（食べ物）」「LANGUAGE（言語）」「LIFE（生活）」「PEOPLE（人）」の5項目に分類し、それぞれの項目に関して5問ずつの合計25問のクイズを作成した。クイズは得点制にし、グループ対抗で行った。答えのスライドの後にも補足の写真や動画を見せることで、スリランカの現地の様子をよりリアルに感じられるようにした。



〔資料3-①〕 クイズを「CULTURE」「FOOD」「LANGUAGE」「LIFE」「PEOPLE」の5項目に分類



〔資料3-②〕 「CULTURE」に関するクイズ（国旗について）



〔資料3-③〕 「CULTURE」に関するクイズ（ココナッツについて）



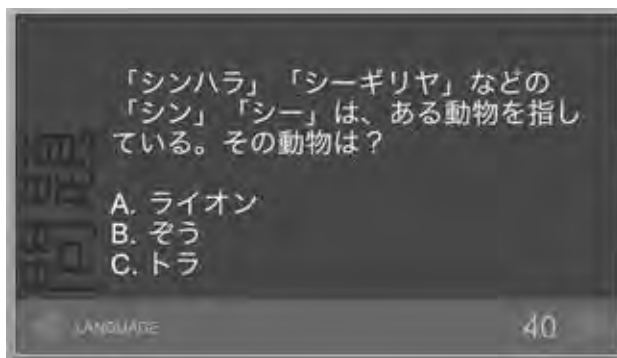
〔資料3-④〕 「FOOD」に関するクイズ（食べ物について）



〔資料3ー⑤〕「FOOD」に関するクイズ（食べ方について）



〔資料3ー⑥〕「LANGUAGE」に関するクイズ（公用語について）



〔資料3ー⑦〕「LANGUAGE」に関するクイズ（言葉の意味について）



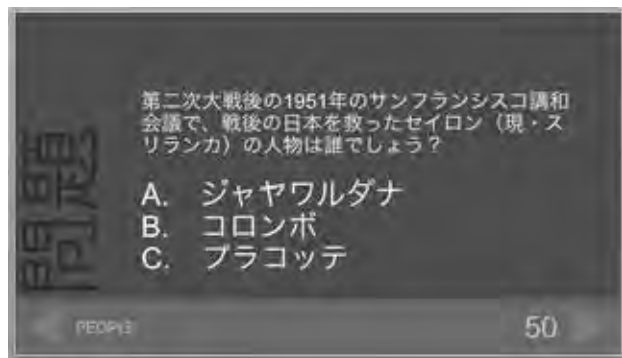
〔資料3ー⑧〕「LIFE」に関するクイズ（宗教について）



〔資料3-9〕「LIFE」に関するクイズ（内戦について）



〔資料3-10〕「PEOPLE」に関するクイズ（マーケットについて）



〔資料3-11〕「PEOPLE」に関するクイズ（ジャヤワルダナ氏について）

Let's know about Sr. Lanka!

	CULTURE	FOOD	LANGUAGE	LIFE	PEOPLE
10	国章の動物 ライオン	鶏肉の料理 カレー	シンハラ語 タミル語	仏教・ヒンドゥー教	僧侶・王
20	お祭りの衣装 スリランカ民族衣装	鶏肉の料理 カレー	シンハラ語・タミル語 英語	仏教・ヒンドゥー教	僧侶・王
30	お祭りの衣装 スリランカ民族衣装	鶏肉の料理 カレー	シンハラ語・タミル語 英語	仏教・ヒンドゥー教	僧侶・王
40	お祭りの衣装 スリランカ民族衣装	鶏肉の料理 カレー	シンハラ語・タミル語 英語	仏教・ヒンドゥー教	僧侶・王
50	お祭りの衣装 スリランカ民族衣装	鶏肉の料理 カレー	シンハラ語・タミル語 英語	仏教・ヒンドゥー教	僧侶・王

〔資料3-12〕クイズをしながらとった生徒のメモ

〔資料4〕 4人の女性の活動カード（第4時で使用）

スリランカで出会った4人の女性の写真の裏に、彼女達が「現地でどんな活動をしているか」「どんな思いで活動をしているか」などの文面を印刷した。1枚の写真につき4分割された文章を読み合わせ、1枚の写真をつくった。文面合わせをする中で、「4人に共通する考え方」を考えた。



日本では、中学校のスクールカウンセラーとして働いていました。現在は、青年海外協力隊員としてキャンディ市役所の支所で働いています。市役所の職員が、環境教育の指導者となるように、職員に対してワークショップを行っています。手法を学んだ職員は、学校などに行って環境教育を行います。	現地の幼稚園や小学校に出向き、絵と歌を用いて環境教育を行っています。2年目に行った幼稚園で、子どもが親に対して、「ゴミを捨ててはダメ」と注意をしていました。少しずつ意識が変わってきているのかと思うと嬉しかったです。地道な作業ではあるが、今後も続けていきたいです。
ゴミのポイ捨てをする人が多いです。自分がゴミをポイ捨てすると、誰かがそれをキレイにしなければならぬとか、街が汚れるという意識が薄いように感じます。幼稚園や小学校では、机の上に出たゴミは床に捨てるのではなく、手で集めてゴミ箱に捨てようと言っています。	こちらの思いや考えを押し付けるのではなく、現場との思いや考えが一致してプロジェクトがスタートします。現地の人が問題性や必要性を感じなければ、プロジェクトは受け入れられません。私の任期が終わった後も、彼ら自身で続けることができるようにしていきたいです。

〔資料4—①〕 青年海外協力隊員（環境教育）の二宮さん



バルシックの東京事務所で4年間働いた後、スリランカで新事業が始まる時に、スリランカに赴任しました。大学で社会学を専攻し、大学院時代にバルシックの姉妹団体でアルバイトをしたことがきっかけでこの仕事につきました。	できあがったサリーのリサイクル製品は「Sari Connection」というブランド名をつけてコロμποの店等で販売し、その売上が女性の収入になります。彼女達は、求められた95%以上の製品を作るように心がけています。サリーをリメイクしたかばんは450ルピーです。カバンには制作者の名前のタグをつけています。
津波や内戦の被害で家族を失った北部の女性達を対象にミシンを提供し、縫製技術を指導して、裕福な世帯から提供してもらったサリーをリメイクして、ブラウスやバッグなどの製品を作っています。事業を通して、女性達の収入向上を目指しています。	女性達の収入向上だけでなく、内戦後のスリランカ北部の現状について知らない南部の人々に、北部の人が直面している困難を伝え、さらに南部の人と北部の女性の間にサリーと商品を通じたつながりを通して、相互理解と平和構築に寄与することも目指しています。

〔資料4—②〕 バルシックの伊藤さん



日本では貿易事務の仕事をしていました。大学生の時から海外に興味があり、色々な活動をしてきました。現在は、街の清掃員のおじさんの生活向上のために協力隊員として活動をしています。街の清掃員のおじさんは、南インドから連れて来られたタミル人の方が多いです。	おじさん達は昼間働いており、これ以上仕事を増やすことはできないので、家にいる奥さん向けに、収入向上になる方法を考えました。リサイクルサリーのぞうり、ビニール袋のたわし、ビール蓋のなべしきなどの小物づくりを提案しています。これらを販売することで、彼らの生活環境が少しでも改善されたいと思います。
4月に、コロμποにあるゴミ山が崩れ、死者が出ました。以来、ゴミの分別が厳しくなりました。9月から、ビニールバックやプラスチックのシート等の使用が廃止になるので、これらのビニールやプラスチックを使った小物作りを提案しようと思っています。	街の清掃員のおじさん達が住んでいる集落でインタビューをしているうちに、彼らの生活の様子が分かってきました。彼らの労働環境の改善を市役所のボスに提案しました。清掃員のおじさんからはビーチサンダル及び手袋不足と定期健康診断の要望がありました。

〔資料4—③〕 青年海外協力隊員（コミュニティ開発）の加藤さん



現地の子どもたちのために何かできることはないかと考え、1992年にスリランカの子どもたちの学びの環境を整えるお手伝いをするために「スランガニ基金」というNGO団体を立ち上げました。善意の押しつけや身勝手な援助ではなく、現地の人々にとって何が一番必要なかを援助する側・受ける側が共に考え、調査し、話し合いをして計画を進めています。	ブッダラ地区の保育士たちから、地区にいる障がいの子どもたちのために何かできないかという話がありました。調査をしてみると、学校に受け入れてもらえず、家の中で孤立している子どもや、社会から軽視され、引きこもっている家族の現状がありました。この地区には、障がいをもつ子どもやその家族の場所がありませんでした。
障がいをもつ子どもたちのための「リトルツリー」以外にも、貧しい家庭の子どもたちへ毎月学びに必要な文具や靴、カバン等を買う教育資金を送る「スマイルズ教育里親プログラム」や、児童心理学などの理論や、歌や踊りなどの実践を身につけた質の高い先生を養成する「保育士研修コース」などの活動もしています。	2011年に日本の支援を受けて、障がいのある子どもたちとその家族を受け入れる通所センター「リトルツリー」を開所しました。ブッダラ地区の障がいのある子どもたちを受け入れ、活動を続けています。障がいのある子どもたちの自立への手助けをするとともに、彼らが社会参加できる機会をつくってきたいです。

〔資料4—④〕 スランガニ基金 Little Treeの馬場さん



〔写真⑥〕 文面を読み合わせる



〔写真⑥〕 4つの文面が揃ったら写真面に向ける

【参考資料】

<映像資料>

- ・ テレビ東京「日経スペシャル 未来世紀ジパング」2014年1月13日放送分
「知られざる親日国スリランカ～経済&観光急成長…その裏には世界マーケットが！」
<http://www.tv-tokyo.co.jp/zipangu/backnumber/20140113/>

<Webサイト>

- ・ DEAR開発教育
<http://www.dear.or.jp/activity/menu03.html>
- ・ JICA地球ひろば 先生のお役立ちサイト
<https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/case/index.html>
- ・ 国連広報センター「国連教育ワークショップin 東京」
http://www.unic.or.jp/kids/files/workshop_tokyo.pdf#search=%27国連教育ワークショップ%27

<書籍>

- ・ 「スリランカを知るための58章 (エリアスタディーズ117)」（エリア・スタディーズ）
- ・ JICA中国「2015年度版 ラオス教師海外研修 授業実践報告書」
- ・ JICA中国「2016年度版 ラオス教師海外研修 授業実践報告書」

授業実践報告

地域紛争と民族問題

氏 名： 梶本 秀樹

学 校 名： 広島山陽学園山陽高等学校

担当教科： 現代社会

時 間 数： 8時間

実践教科： 現代社会

対象学年： 1 学年

人 数： 41人

【1】単元のテーマ・目標

- ・スリランカの国柄、歴史を知る。
- ・これまで学習した地域紛争とスリランカの内戦の共通点を理解することで、平和について考える。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	スリランカと日本のつながりに関心を持ち、平和について考えよう とすることができる。
(イ) 思考・判断・表現	スリランカの内戦を通して、恒久平和の大切さについて自分の考え を持つことができる。
(ウ) 技能	スリランカ独立までの年表をもとにして、各種出来事から、内戦の 原因を読み解くことができる。
(エ) 知識・理解	スリランカの内戦の原因及び、他の紛争との共通点について理解す ることができる。

【3】単元設定の理由

“アヒンサー(不殺生)”という考え方がある仏教国スリランカにおいて、生き物と共生している具体的現状があるにもかかわらず、かつて起こった内戦時には大勢の人が殺し合ったという戦争の恐ろしさを感じさせることを通して、世界平和について深く考えさせることをねらいとしている。

部活動に意欲的に打ち込んでいる生徒は多いが、学業に対しての意欲・関心が比較的低い。その原因として、自分たちを取り巻く恵まれた環境が当たり前と感じている生徒が多く、その結果として、学習意欲の低下にもつながっていると考えられる。

“内戦”という命のやり取りとなるテーマを教材にすることで、生徒の強い関心を引きつけ、繰り返されてきた紛争や内戦の歴史を通じて、その共通点を理解させたい。その上で学ぶ大切さに気付かせ、日々の学習意欲への向上及び、学校生活全体への高い意識改革へとつなげていきたい。

【4】展開計画（全8時間）

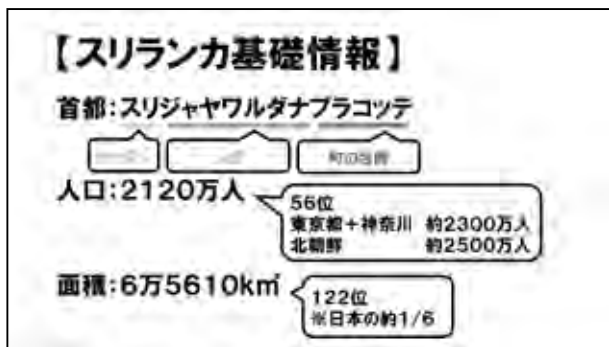
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「国家主権と国際法について」 ・主権国家の成り立ちについて理解する。 ・国際法の意義や種類、および国際司法裁判所を理解した上で、その限界や問題点を考える。	第二章で学習した「個人と国家」での社会契約について、ホッブズ・ロック・ルソーの三名の話をクイズ形式で思い出させ、主権国家の成り立ちに結び付ける。 ・主権国家の成り立ちについて ・国際司法裁判所の意義と種類について	・教科書 ・ワークシート ・Power Point
2	「国際連合の役割と課題」 ・勢力均衡と集団安全保障の相違点を具体的に理解させる。 ・国際平和を実現させる上で、国連の役割の重要性を理解させる	学校という環境を世界に置き換え、それぞれのクラスを国として考えて、勢力均衡と集団安全保障について具体的に考察させる。(ペアワーク) ・国際連合の役割と課題について	・教科書 ・ワークシート ・Power Point
3	「第二次世界大戦後の国際社会」 ・米ソの東西両陣営の対立構造を理解するとともに、冷戦がもたらした代理戦争について理解させる。	資本主義、社会主義を理解し、世界の国々はどちらの主義であるのかクイズ形式で考えさせる。(ペアワーク) ・東西両陣営の構造について	・教科書 ・ワークシート ・Power Point
4	「冷戦終結後の国際社会」 ・冷戦終結後の国際社会の構造変化について理解させる。 ・今日まで続いているテロ事件についての原因を考察させる。	ソ連崩壊の原因を、社会主義の限界と関連付けられるように、画像を見せながら考えさせる。アメリカ同時多発テロの内容を具体例に取り上げて、テロがなぜ起きるのか考察させる。(ペアワーク)	・教科書 ・ワークシート ・Power Point
5	「核兵器の廃絶と国際社会」 ・核開発の背景に、冷戦時の軍拡競争があったことを理解させる。 ・核廃絶の難しさと同時に、国家間のみならず、市民の根強い運動が求められることを理解させる。	世界の核保有国の資料をもとに、常任理事国との関連性を読み取らせ、核武装論の是非を、被爆地広島県人として、意見を発表させる。	・教科書 ・ワークシート ・Power Point
6	「地域紛争と人種・民族問題」 ・各地域紛争にはどのようなものがあるか理解させる。 ・地域紛争の要因を理解し、解決のために求められることを考察する。	プリント学習後、各種映画を鑑賞し、感想を交流し合う。 紛争の要因は、民族対立、宗教対立、歴史的対立にポイントを絞り、それぞれの共通点を考えさせる。	・教科書 ・ワークシート ・Power Point ・ビデオ

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
7 本時	・スリランカの国柄、歴史を知る。 ・これまで学習した地域紛争とスリランカの内戦の共通点を理解することで、平和について考える。	グループ学習でのクイズを行い、スリランカの基礎知識を学習し、その上で共生を実現しているスリランカが、かつて内戦を起こした原因について意見交流させる。 「戦争のない世界」「平和のためにできること」についてグループ単位でディスカッションし、考えをホワイトボードにまとめて発表させる。	・Power Point ・ホワイトボード (グループに一つずつ)
8	「国境と領土問題」 日本の役割と私たちの生き方	時事問題を取り上げ、グループディスカッションを行う。 ・北朝鮮問題 ・パレスティナ問題 前時につなぐ考察を、グループで行う。	・教科書 ・ワークシート ・Power Point

【5】 本時の展開

学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
スリランカの基礎情報と国民性を学ぶ。 ○スリランカの基礎情報を、Q&Aのクイズ形式で班ごとに競争する。7グループの班をつくる（6名×6、5名×1） スリランカの内戦に至るまでの経緯と内容を理解する。 ○スリランカ内戦勃発までの歴史を参考にして、これまで学習してきた地域紛争との関連性を探りながら、スリランカ内戦の原因を考える。 戦争のない世界を築くために求められるもの、平和に何が必要なのか考えさせる ○グループでディスカッションする ○日々の日常生活に目を向け、今できることを考える。 恒久平和に必要な考え方をまとめる。	・生徒に関心のあるテーマを取り上げ、クイズ形式にすることで、興味関心を高めさせる。 ・グループにすることで、幅広い考えや意見を出しやすくさせ、より深い関心を持たせるよう促す。 ・要因となったキーワードを引き出し、これまでの学習とスリランカ内戦との共通点に気付かせる。 ・スリランカの国民性と反する戦争との比較を通じて、戦争の恐ろしさを理解させる。 ・これまで学んできた学習を関連付けて、考察させる。 ・世界平和という大きなテーマから、日々の日常での生活に意識を向けさせ、今できることを考えさせる。 ・先人の言葉(ジャヤワルダナ氏のエピソード・ネルソンマンデラの言葉)を知ることによって、平和に必要な考え方について理解を深めさせる。 ・教育の重要性を理解し、日々の学習こそ、世界平和の大きな力になるということに気付かせる。	

○スリランカの基礎知識を、班ごとで協力し合いながら、クイズ形式で学ぶ。



スリランカ基礎情報①



スリランカクイズ①

○普段飲んでいる紅茶が、実はスリランカ産の紅茶であった。まったく縁がないと思っていたスリランカと日本が、実は近いところでつながっていたことを実感できる話のひとつであった。



スリランカクイズ②



スリランカ基礎情報②

○生徒には、スリランカはカレーのイメージがないことがわかったクイズ。②と③答えが多かった。



スリランカクイズ③



スリランカ基礎情報③

○朝・昼・晩すべてカレーが食卓に並ぶということ、種類の豊富さに驚く生徒。同時に、熱帯地域の気候が、腐りにくい食べ物の発展につながっているという気候と食とのつながりにも気付かせることができた。



スリランカ基礎情報④

ここからの2つのクイズは、スリランカが仏教国であり、生き物と共生していることが、強く感じられる内容のものにしてある。

○1つ目は、シーギリヤロック付近で、私が白アリの巣を壊して遊んでいると、地元の青年たちに、注意を受けた出来事。



スリランカクイズ④



スリランカ基礎情報⑤ (シロアリのアリ塚)

○2つ目は、障害者支援施設の子どもたちにプレゼントしたおもちゃの昆虫に、子供たちが怖がった出来事。



スリランカクイズ⑤



スリランカの子供達が怖がった昆虫のおもちゃ

○近くに近寄っても逃げようとしないトカゲや、人通りの多い場所でも駆除されないスズメバチの巣があることは日本では考えられない。この写真を通して、生き物と共生するスリランカの様子が理解できた。



人間を怖がらないトカゲ①

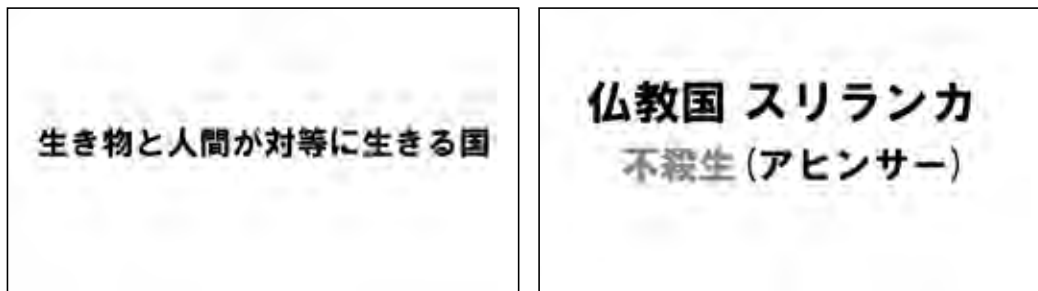


人間を怖がらないトカゲ②



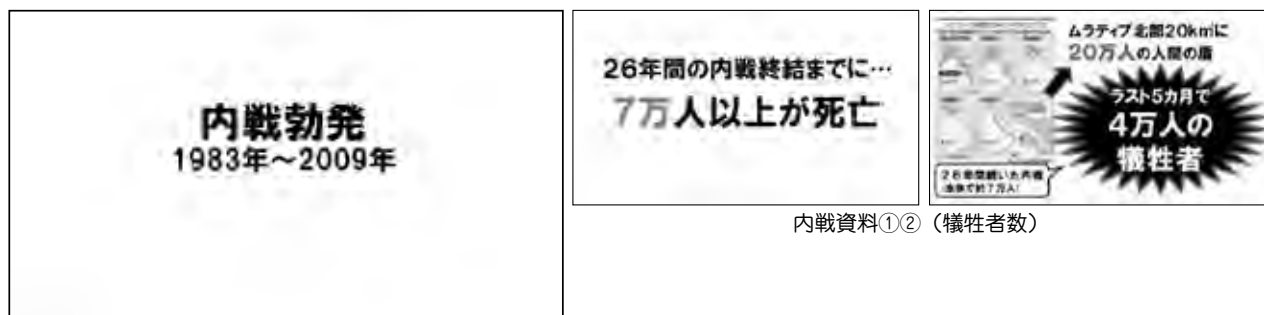
駆除されないスズメバチの巣

○命を尊ぶ仏教国であることの確認



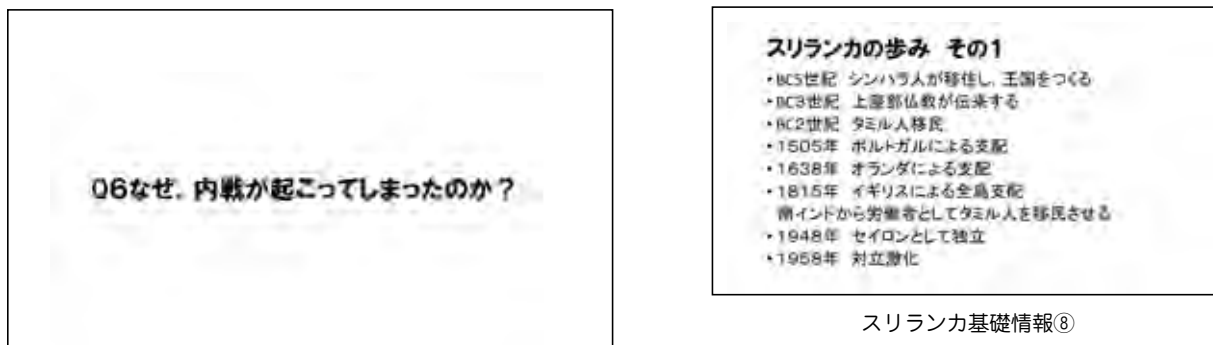
スリランカ基礎情報⑥⑦

○このような虫とすら共生する(命を大切にする)スリランカで、なぜ同じ人間が殺し合うという内戦が起こってしまったのか。大きなギャップを感じさせることで、戦争の起こった原因について考えさせる。



内戦資料①② (犠牲者数)

○グループごとに、下記の発問に対して、右のスリランカの歴史を参考にしながら原因を考えさせる。これまで地域紛争等で学習してきたことと関連付けて、内戦の原因をたどる。



スリランカ基礎情報⑧

※グループごとに考えを発表させ、意見交流を行う。その後下記の順で内戦の原因を確認する。

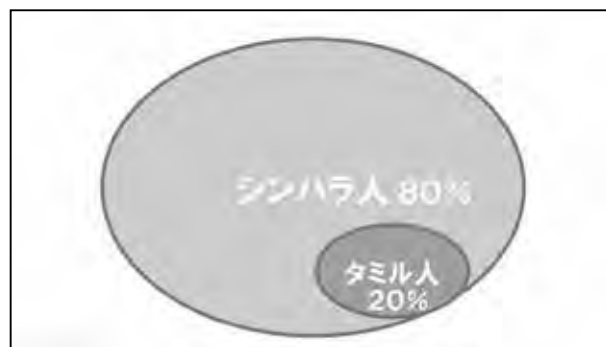


スリランカ基礎情報⑨ (2つの民族について)

○二つの民族の対立。シンハラ人とタミル人について。右の写真から肌の違い、外見的の違いに気付かせる。また、言語の違いがあること、およびタミル人とシンハラ人の人口割合について説明する。



スリランカ基礎情報⑩（二つの民族について）



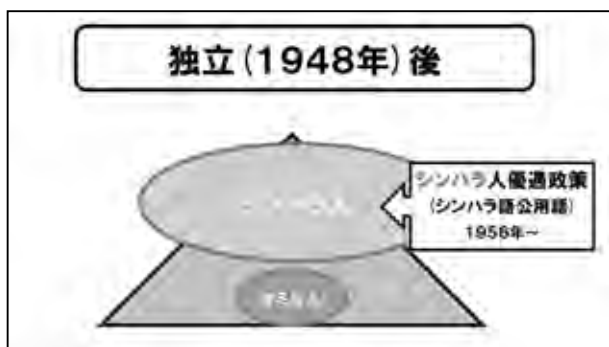
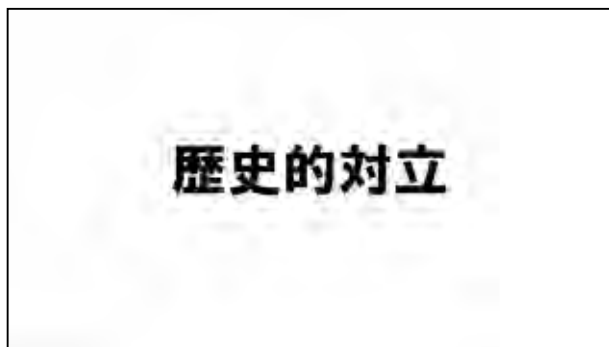
スリランカ基礎情報⑪（二つの民族の割合）

○シンハラ人は仏教、タミル人はヒンドゥー教。



スリランカ基礎情報⑫（二つの民族の割合）

○イギリスが行った分割統治政策も大きな内戦要因の一つになっていることを説明する。植民地政策によって引き起こされてきた、民族対立について思い出させる。※ルワンダ内戦等…



スリランカ基礎情報⑬⑭（二つの民族の歴史的対立について）

○グループごとに問いに対する考えをホワイトボードにまとめて発表する。

Q7 どうすれば、戦争のない世界をつくれるのか？

Q8 平和のために、今の自分ができる事とはなんだろう？

Q7に関しては、あまりにも大きな議題のため、抽象的回答が多かった。Q8に関しては、日常生活の中での道徳的な身近な周りでの話を絡めた意見が出た。

○まとめでは、先人の言葉を用いて、音楽付きでスライドを見せる。

**愚者は経験から学び、
賢者は歴史から学ぶ**

同じ過ちを繰り返さない

学ぶ

先人の言葉（オットー・ビスマルク）

本時の学習のキーワード①②

○ジャヤワルダナ氏が、サンフランシスコ平和条約締結の際の会議で話した内容。日本に対するすべての賠償請求を棄権し、その理由を下記の内容で答えた。

それと同時に、過去に学習したマンデラ大統領の言葉からも引用した。



スリランカ基礎情報⑮（ジャヤワルダナ氏）

ジャヤワルダナは、日本を国際社会の一員として受け入れるよう訴え、同時に、セイロンは対日賠償請求権を放棄した。



スリランカ基礎情報⑯
（ジャヤワルダナ氏のスピーチ）

**「憎しみは憎しみによっては止まず、
ただ愛によってのみ止む」**

スリランカ基礎情報⑰
（ジャヤワルダナ氏のスピーチ内容）



教育とは、世界を変えるために用いることができる、最も強力な武器である

マンデラ大統領の言葉

○学ぶ大切さにつなげることで、日々の学習意欲向上に転換を促す。



本時のまとめ①②③④



ジャヤワルダナ氏が希望を抱いた未来に君達は生きています。
私たちの一人一人の力で、平和な社会を築いていきましょう。

生徒へのメッセージ

【6】本時の振り返り

学習意欲があまり高くない傾向がみられる本校生徒にとって、いかに授業に興味関心を持たせるかが大きなテーマであったことと、“戦争をなくすために、何が求められるか”という、大変難しい問いかけであったこともあり、授業がうまくいくかという不安があった。

しかし、思いのほか、授業導入のクイズから、意欲的に発言が飛び交い、スリランカという国に対しておおいに関心を持たせることができた。また、本時のめあてである、世界平和について考える場面では、グループの仲間と意見を出し合いながら、自分達なりの答えを導き出すことができていた。

その要因としては、まずICTを活用した視覚的に訴える授業構成であったことや、普段の授業の形態とは違い、班ごとのグループ活動を行ったことで、自分の意見を出しやすくなったことも挙げられる。このクラスでは、初めてのグループ活動であったが、普段以上に、互いに意見を交流するなどの意欲的な態度が見られたので、グループ活動の有効性が、あらためて感じられた。

しかし、先進国という恵まれた環境で生まれ育った生徒において、戦争や死というものに対して、実感の伴った意見が出るにはいたらなかった。

だからこそ、教科書の内容の知識伝達で終わるのでなく、異国の文化や考え方に触れさせるとともに、仲間との協働的な活動を通して、主体的で深い学びができるようにしていきたい。

【7】単元を通した児童生徒の反応／変化

授業後に、校内の自動販売機に行き、紅茶の飲料水を購入し買って持ってきた生徒が複数いた。

「先生、本当にスリランカの紅茶なんじゃね!」と、普段授業に積極的でない生徒が、嬉しそうに話しかけてきた。その後も、スリランカの料理の話等、興味を示し、カレーの話や料理の話をしていった。

ガスの無い、かまどでの調理の話では、かつての日本もそうであったことを話すと、自分たちがいかに恵まれた環境で育ってきたかを実感できたようであった。

まったく関わりがない異国の地とされていた国が、自分たちの身近にある物とつながっていることに気が

せることで、生徒の関心を高めるきっかけになることが改めて分かった。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

グループ学習を通し、普段積極的に発言する機会の少なかった生徒が、教師の発問に対して反応を示すようになった。また、これまで行ってきたペアワークにおいて、今まで以上に活発な意見交換が行えるようになった。

さらに、今回のような、明確な答えが定まっていない問題を考え、意見を出し合うことによって、相手の意見を傾聴することの大切さも学べていた。実際に、他者の発言に体をしっかりと向けて真剣に聞く生徒が増えた。

【途上国・異文化への意識の変容について】

＜授業前＞

国際情勢のニュースへの関心度が低く、授業開始時に行っている時事問題のクイズでは、「聞いたことがない」という生徒が多く、その国や地域の基礎情報から説明に入ることが多かった。

＜授業後＞

世界情勢に関してのニュースに興味関心を持つ生徒が増えただけでなく、事前にクイズで聞かれるであろう内容(パレスティナ問題・ロヒンギャの難民問題など)について、学習してくる生徒もいた。

【8】 自己評価

1. 苦労した点

- ・ 普段からグループ学習等をあまり行っていないために、グループ活動をさせた際に、特定の生徒の発言に偏りが生じる可能性があったため、グループごとにホワイトボードを用意し、互いの考えを書き込みながら意見が交流できるよう配慮した。
- ・ “戦争のない世界”という漠然とした議題を、日々の生活での取り組みにつなげることは大変難しいと予測されたため、過去の感動する史実(ジャヤワルダナ氏)を引用し、BGM等を効果的に利用することで、生徒の心情に訴えかけるよう工夫した。
- ・ 共生という概念を少しでも理解させるために、自己の失敗談や体験を動画と画像を使って効果的に提示した。

2. 改善点

- ・ 戦争や人の死を身近に感じられない日本の高校生にとって、平和について親身になって考えさせるためには、ベースとなる深い予備知識が今以上に求められる。
- ・ 平和教育や総合学習を通じての横断的な学びで深めさせていく必要がある。
- ・ 本校は、二年次より日本史がスタートするため、近現代史を学ぶ中で、戦争のメカニズムについて理解を深めさせたい。

3. 成果が出た点

- ・ 日々の生活の飲食に関わりのある紅茶が、スリランカと深く結びついていたことに気付かせることで、スリランカへの親しみと関心はより一層高まった。
- ・ グループ活動を行うことによって、グループごとでの連帯感が深まり、その勢いで後半の本題である発問に対しても、活発な意見交流が出来ていた。
- ・ スリランカ内戦の要因を考察する際、生徒から「少数派」、「植民地支配」といったキーワードが多く出ていたことから、日頃の授業で時事問題として取り上げてきたパレスティナ問題や、ロヒンギャの難民問題などが思考の一助になっていた。

4. 備考・所感

私は、本校の大きなひとつの課題である、学習に対しての意欲・関心の向上をはかるために、年に数回程度海外に行き、生徒たちにその国の情報を写真や映像で伝えるようにしてきた。その中でも、開発途上国を中心とした国を紹介し、日本と比較することで、日本という国の豊かさ、そして日々の日常のありがたさを生徒に感じさせるよう心掛けてきたが、個人旅行で得られる情報には制限があり、求める情報が得られないことも多くあり悩んでいた。

そうした中で、今回の教員研修プログラムは、まさにその私の願いを叶えられる研修であった。この研修を通じて、国外で活躍されている日本人の貴重な意見や、またその現場の視察、さらには、個人旅行では、得られない貴重な体験を数多くさせてもらうことができた。また、個人でなく、同じ志をもった仲間と共に研修を受けたことで得られた新たな気付きや学びがたくさんあった。

この研修に参加させて頂けたことに深く感謝している。

【参考資料】

- ・ 高等学校改訂版 新現代社会（第一学習社）
- ・ 「地球の歩き方 スリランカ」（ダイヤモンド社）
- ・ 「致知2016年9月号『恩を知り恩に報いる』」（致知出版社）
- ・ 「日本人の知らない日本がある ころに残る現代史」白駒妃登美（角川書店）

主催：独立行政法人国際協力機構 中国国際センター（JICA中国）

後援：外務省、文部科学省

広島県教育委員会、広島市教育委員会、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、
山口県教育委員会、島根県教育委員会、鳥取県教育委員会

* 本報告書はJICA中国ホームページ（<https://www.jica.go.jp/chugoku/>）からもダウンロードできます。
ワークシートやデータなどそのままご使用頂けますので、どうぞご活用ください。



独立行政法人 国際協力機構
中国国際センター（JICA中国）

〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1 ひろしま国際プラザ内
TEL 082-421-6305 FAX 082-420-8082
<http://www.jica.go.jp/chugoku/>

